

2 0 2 4（令和6）年度

事 業 報 告 書

学校法人 大阪歯科大学

目 次

はじめに	1
第 1 部 事業の概要及び附属資料	2
法人の概要	2
建学の精神	2
沿革	2
学校法人大阪歯科大学組織図	3
学校法人名称及び所在地	4
役員・評議員	4
教職員数	5
学生の状況	6
I. 大学全体	7
II. 歯学部歯学科・大学院歯学研究科	8
III. 医療保健学部(口腔保健学科・口腔工学科)・大学院医療保健学研究科	17
IV. 看護学部看護学科	30
V. 研究に関すること	36
VI. 国際交流	39
VII. 社会連携・社会貢献	40
VIII. 附置施設の活動	41
IX. 教員力の向上	43
X. 附属病院の取り組み	45
XI. 施設・設備(教育研究等環境)の整備	49
XII. 法人・大学の管理・運営	49
附属資料	51
第 2 部 財務状況の概要	68

は じ め に

大阪歯科大学は、建学の精神である「博愛公益」を基調とした１００年を超える歩みの中で、歯科医学・医療の発展に寄与してきた。

２０２４（令和６）年度は、教育、研究、臨床の発展充実、経営の効率化を目指すとともに、「第１期中期計画」「第１期中期財政アクションプラン」（２０２０年度～２０２４年度）の最終年度でもあることから、建学の精神の一層の具現化を停滞させることなく、各種事業に取り組んだ。

本学は、「学修者本位の教育への転換」のための取り組みを継続し、「２０４０年に向けた高等教育のグランドデザイン」にあるＳＤＧｓ、Society5.0、地方創生及び地域連携を盛り込み、持続的な教員力の向上を図った。

歯学部歯学科では、大学基準協会の歯学教育評価（分野別評価）において適合認定（認定期間：２０２４年４月１日～２０３１年３月３１日）を受け、教育活動の一層の向上に取り組む充実を図った。初年次教育の充実、オナーズ教育への注力、共用試験、臨床実習、診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CCPX）、歯科医師国家試験の成績向上に取り組む、第１１８回歯科医師国家試験では、新卒者の合格率は１００％であった。学生の受け入れについては、安定した入学志願者数により定員を充足した。

大学院歯学研究科では、一般、社会人、外国人留学生の各区分で入学者を募集するとともに、大学院生の研究活動の活性化を図った。

医療保健学部（口腔保健学科・口腔工学科）では、歯科衛生士、歯科技工士両国家試験で第１期生以来、５期連続合格率１００％を達成し、社会福祉士国家試験では、昨年度同様新卒者は全員合格した。

大阪歯科大学歯科衛生士研修センターでは、歯科衛生士のリカレント教育の拠点として開設７年目の研修が無事終了した。

大学院医療保健学研究科（口腔科学専攻）では、修士課程の学位取得者は５名で、また博士課程（後期）の学位取得者は４名であった。

看護学部看護学科では、学生の受け入れについて、安定した入学志願者数を示し、定員を充足した。第１学年次のカリキュラムは、履修計画のとおり順調に進行した。

附属病院では、附属病院組織改革委員会の検討を踏まえ、医療の質向上と経営効率化を図った。

キャンパス整備計画検討会議での意見交換を踏まえ、理事会の傘下に天満橋キャンパス整備建設委員会が発足し、自然災害に耐え得る天満橋学舎新棟（仮称）建設に関する基本設計の検討がスタートした。

医療イノベーション研究推進機構では、積極的に特色ある研究の推進に取り組んでおり、その一環として、東大阪市、東大阪市東歯科医師会、東大阪市西歯科医師会及び本学が、東大阪市内モノづくり企業による機器開発等に係る包括的な連携に関する協定を締結した。

以上、今後とも教育・研究・臨床等の一層の充実発展を目指していくものである。

第 1 部 事業の概要及び附属資料

法人の概要

○基本情報

- ①法人の名称 学校法人大阪歯科大学
②住所等 (住所) 540-0008 大阪市中央区大手前 1-5-17
(電話番号) 06-6910-1111
(ホームページアドレス) <https://www.osaka-dent.ac.jp>

建学の精神

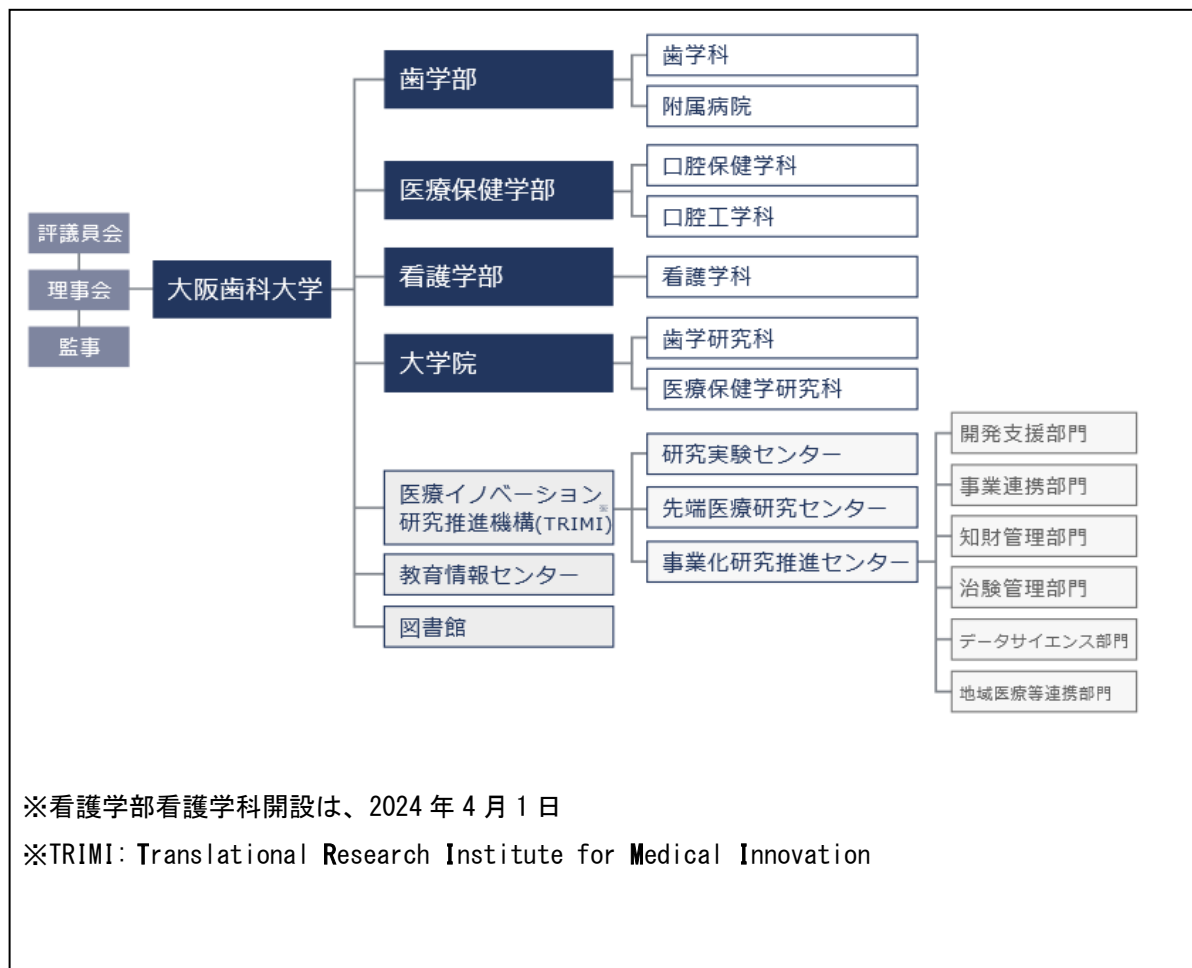
歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕的人生観を体得して、「博愛」と「公益」に努める。

沿革

1911 (明治 44) 年 12 月 12 日	大阪歯科医学校設立
1912 (明治 45) 年 1 月 14 日	大阪歯科医学校開校式 (創立記念日)
1917 (大正 6) 年 9 月 7 日	財団法人大阪歯科医学専門学校設立
1917 (大正 6) 年 9 月 25 日	大阪歯科医学専門学校開校
1947 (昭和 22) 年 6 月 18 日	大学令に基づく旧制大阪歯科大学設立 (大学昇格記念日)
1951 (昭和 26) 年 3 月 2 日	私立学校法に基づく学校法人大阪歯科大学へ組織変更認可
1952 (昭和 27) 年 2 月 20 日	学校教育法に基づく新制大阪歯科大学設置認可
1961 (昭和 36) 年 3 月 31 日	大阪歯科大学大学院歯学研究科 (博士課程) 設置認可
1964 (昭和 39) 年 4 月 17 日	大阪歯科大学付属歯科技工士養成所 (大阪歯科大学歯科技工士専門学校) 開設
1968 (昭和 43) 年 5 月 1 日	大阪歯科大学付属歯科衛生士学校 (大阪歯科大学歯科衛生士専門学校) 開設
1997 (平成 9) 年 4 月 1 日	楠葉学舎、天満橋学舎附属病院竣工、牧野学舎 (体育・課外活動施設) と合わせて 3 学舎体制となる。
2011 (平成 23) 年 11 月 11 日	創立 100 周年記念式典挙行
2016 (平成 28) 年 8 月 31 日	大阪歯科大学医療保健学部 (口腔保健学科、口腔工学科) 設置認可
2017 (平成 29) 年 8 月 29 日	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻 (修士課程) 設置認可

2018（平成 30）年 3 月 31 日	大阪歯科大学歯科技工士専門学校廃止
2019（平成 31）年 3 月 31 日	大阪歯科大学歯科衛生士専門学校廃止
2019（令和元）年 11 月 19 日	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）設置認可
2023（令和 5）年 9 月 4 日	大阪歯科大学看護学部看護学科設置認可

学校法人大阪歯科大学組織図（2023年9月～）



学校法人名称及び所在地

学校法人大阪歯科大学

大阪府大阪市中央区大手前1丁目5番17号

大学案内ホームページアドレス：<https://www.osaka-dent.ac.jp/pamphlet.html>

(楠葉学舎)

大阪歯科大学歯学部歯学科

大阪府枚方市楠葉花園町8番1号

大阪歯科大学大学院歯学研究科

(楠葉西学舎)

大阪歯科大学看護学部看護学科

大阪府枚方市楠葉花園町11番8号

(牧野学舎)

大阪歯科大学医療保健学部

大阪府枚方市牧野本町1丁目4番4号

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科

(天満橋学舎)

大阪歯科大学附属病院

大阪府大阪市中央区大手前1丁目5番17号

役員・評議員(2025年3月31日現在)

[順不同、敬称略]

【役員】理事：定数7名以上11名以内 現員9名

監事：定数2名 現員2名

	氏名	現職・主な職歴・就任年月等
理事長	川添 堯彬	大阪歯科大学学長(2007.10)
常務理事	田中 昭男	大阪歯科大学副学長・歯学部長(2008.4)
理事	山本 一世	大阪歯科大学教務部長(2022.4)
理事	三宅 達郎	大阪歯科大学教授・国際交流部長(2022.4)
理事	藤原 眞一	大阪歯科大学教授(2023.4)
理事	上田 雅俊	学校法人大阪歯科大学評議員(2014.5) 学校法人大阪歯科大学理事(2018.4)
理事	中嶋 正博	大阪歯科大学附属病院長(2022.4)
理事	古川 壽男	歯科医師(2022.4)
理事	中尾 昌彦	学校法人大阪歯科大学経理部長(2024.3)
監事	生駒 等	歯科医師(2018.4)
監事	平田 正憲	弁護士(2024.7)

【評議員】定数 30 名以上 40 名以内 現員 37 名

○選任区分 氏名

○本法人理事会理事互選（2 名）

川添 堯彬（理事長）、中嶋 正博（理事）

○本学教授会推薦（歯学部教授 10 名）

池尾 隆、梅田 誠、辻林 徹、前田 博史、馬場 俊輔
百田 義弘、高橋 一也、富永 和也、沖永 敏則、野崎 中成

○本学同窓会推薦（本学卒業生・歯科医師 15 名）

岡田 太郎、岡本 学、澤田 隆、芦田 欣一、安宅 公男
和手 甚京、城村 幸治、酒井 昭則、恩田 信雄、加藤 信次
橋本 成人、吉光 博史、大塚 俊裕、徳富 敏信、大松 高

○本法人理事会推薦（10 名）

鈴木 實、北條 博一、松本 圭右、上田 雅俊、末瀬 一彦
和唐 雅博、柿本 和俊、吉本 一馬、雄西智恵美、中尾 昌彦

教職員数（2025 年 3 月 1 日現在）

専任教員数	2 2 2 名
-------	---------

専任職員数	1 8 5 名
-------	---------

専任教職員数合計	4 0 7 名
----------	---------

学生の状況（2024年5月1日現在）

（名）

設置学部等	修業 年限	入 学 定 員	入 学 者 数			収 容 定 員	在 籍 者 数
			男子	女子	合計		
歯学部 歯学科	6	160*	55	73	128	960*	778
医療保健学部	4	100	7	90	97	400	382
口腔保健学科		70	0	80	80	280	290
口腔工学科		30	7	10	17	120	92
看護学部 看護学科	4	80	8	92	100	80	100
大学院 歯学研究科 博士課程	4	30	25	18	43	120	165
大学院医療保健 学研究科口腔科 学専攻（修士課 程）	2	10	3	5	8	20	15
大学院医療保健 学研究科口腔科 学専攻博士課程 （後期）	3	3	1	2	3	9	23
合計		383	99	280	379	1,589	1,463

* 歯学部・歯学科については、学則上の入学定員、収容定員

I. 大学全体

大学全体での取り組み

- ・ 大阪歯科大学は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的としている。この目的達成のため教育・研究・臨床の発展を図った。
- ・ 歯学部（第1学年から第4学年まで）と大学院歯学研究科は、大阪府枚方市の楠葉学舎、看護学部は楠葉西学舎で、また、医療保健学部・大学院医療保健学研究科は、枚方市の牧野学舎にて教育研究活動を行っている。さらに、歯学部の第5・6学年の教育活動及び附属病院での診療活動は、大阪市中央区の天満橋学舎にて行っている。SDGs、Society5.0、地方創生及び地域連携を大学全体における共通の課題として取り組んだ。
- ・ 大学・大学院全体の教学マネジメント（内部質保証推進）組織としての「大学協議会」と「自己点検・評価委員会」とが連携し、自己点検・評価活動を行い、改善課題の解決に取り組んでいる。
- ・ 本学全体の「3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）」と、文部科学省中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント指針」を基に、大学全体のアセスメント・プランと各学部のアセスメント・プランを定め、人材の育成に取り組んだ。
- ・ 5つの方針（「教育研究組織の設置方針」「学生支援の方針」「教育研究環境の整備の方針」「社会連携・社会貢献の方針」「管理運営の方針」）を基に大学の質の向上を図った。
- ・ 2021年3月に開設した「ODU歯科医療連携プログラム」は、3学部の教育目的に関連する様々な分野を横断的、かつ総合的に学ぶことにより、修得した知識・技能・態度を組み合わせる力を養い、歯科医療の専門職に求められる多様なニーズに対応する実践力を身につけ、学士力の向上に資することを目的としている。2021年4月に文部科学省に認定された「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）MDASH」をこのプログラムの履修領域の第1弾とした。また、第2弾として2024年4月の看護学部設置に伴い、「キャリアプランニング領域」を設けた。
2024年度は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）MDASH」は認定後4年目を迎えるが、これまで以上に本学の学生がデジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」への関心を高め、適切に理解し、これを活用できる医療人に育成することを目的とし、各学年においてHR等で説明を行った。
- ・ 「第1期中期計画」にその全学的な行動目標を定め、建学の精神を基調とする使命感を持った人材育成に努めた。さらに、「第1期中期財政アクションプラン」の進捗状況を

注視し、財政の強靱化を図った。

- ・ 看護学部看護学科については、開学２期目となる入学者の確保、教育の質の向上に取り組むとともに、大学院看護学研究科開設に向けて準備を進めた。
- ・ ２０２４年６月、理事長・学長の主導で全学的に開催されたキャンパス整備計画検討会議における意見交換を踏まえ、同年７月理事会のもとに天満橋キャンパス整備建設委員会が発足し、自然災害に耐え得る天満橋学舎新棟（仮称）建設に関する基本設計の検討がスタートした。

Ⅱ．歯学部歯学科・大学院歯学研究科

歯学部歯学科の教育方針

本学の教育方針は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針とに則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的とする。したがって、本学の学生は歯科医師たる適性の素質を持ち、本学の教育方針に沿い得るものでなければならない。歯科医師として必要な適性とは、次の三つに要約される。

- 一、能力的な適性 歯科医学の学理と技術を理解し応用できる知能、学力、技能
- 一、人格的な適性 歯科医師としての使命感、社会観、世界観、態度、意志など幅広い人間性
- 一、身体的な適性 歯科医師としての職務を遂行しうる体力と活動力

以上の、三つの適性はいずれに優劣があるものではなく、どれひとつとして欠かすことのできないものである。本学では６年間の一貫教育を通じて、学生のそれぞれの個性を尊重しながら、以上の適性を涵養、発展させ、人間性豊かな歯科医師を養成することを教育の目標としている。

○ディプロマ・ポリシー

豊かな人間性を支える基盤的能力及び歯科医師としての専門的能力を有機的に備え、新時代の歯科医療に積極的に対応できる人材を輩出する。

- ・ 基礎医学及び歯科医学の体系的な知識を有し、これを礎として実社会に還元できる能力を身に付けている。
- ・ 種々の情報を自ら収集・分析する科学的探究心を涵養し、自ら問題を発見し、解決できる能力を有している。
- ・ 汎用能力及び危機管理能力を持ち、絶えず研鑽を積む習慣を持っている。
- ・ 海外研修などを通じて、国際人としての素養を磨きグローバルに活躍できる実力を身に付けている。
- ・ 歯科医療を適切かつ確実に行う技能を身に付けている。

- ・新時代の歯科医療に積極的に取り組み、患者中心の医療並びに人々の求める歯科医療を理解し、チーム医療を主体的に実践できる能力を身に付けている。
- ・価値観の多様性に対応できる幅広い視野と判断力を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー

「博愛と公益」の精神のもと、「歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献する」という教育方針に基づき、専門的な「知識・技能」、総合的な「人間力・チームワーク」を備えた歯科医学・歯科医療を担う人材を養成する。

修得概要

- ・6年間一貫教育の中で歯科医師として必要な知識、技能及び態度を修得する。
- ・入学時の初年次教育及び早期臨床体験学習から、臨床実習に至る一貫した履修の中で歯科医療人として必要な態度を修得する。
- ・歯科英語の修得及び海外研修活動を通して、国際医療人としての素養を身につける。
- ・研究マインドの養成のために研究チャレンジに取り組む。
- ・学生が意欲を持って学習でき、4年次のコアカリ講義・実習、臨床実習による歯科専門教育を通して、歯科医師として自ら考え、実践する能力及び6年次の統括教育を通じて、歯科医学教育における総合的な知識を修得し、国家試験に合格する能力を身に付ける。
- ・診療参加型臨床実習を通じて歯科医師として必要な知識、技能、態度を修得する。
- ・患者さんへの思いやり及び社会的責任を果たすことができる倫理観を修得する。

教育方法

- ・シラバスに沿った講義と実習。
- ・知識及び技能の獲得のために開発した教材の利用。
- ・アクティブラーニングのためのグループ学習。
- ・学習支援のための小グループ講義。
- ・社会と患者との関わりを認識するための体験学習及び臨床実習。

学習成果の評価

- ・シラバスに示す各科目試験及び総括試験。
- ・臨床実習前に行う歯学系共用試験。
- ・臨床実習時の臨床知識試験・歯学系臨床能力試験。
- ・臨床実習終了後の学士試験。

以上の各試験によって評価し、進級及び卒業の判定を行う。

歯学部歯学科の教育改革

1. 歯学部における特色ある教育の展開

歯学部では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及び建学の精神の「博愛」と「公益」の具現化に努めるべく、学生支援に関する方針（HPに掲載）に則り、教学支援体制の充実を図り、医療人として使命感をもった人材を育成するために教学支援を行った。

特に成績不振の学生対応については、授業の出席状況や各試験の結果によって対象者を洗い出し、指導教授及び助言教員による個別面談を行い、留年、休学、退学の可能性がある学生にはさらに父母等とも面談を行い生活習慣や学習方法を指導した。また学習支援部門の役割を担う歯科医学教育開発センターで学習に不安を抱える学生や低学力の学生を、個別指導に近い形でフォローし、育み教育を実践した。

学年の学修支援は以下のとおりである。

第1学年では、先ず入学直後の試験を通して低学力層の学生を抽出し、歯学教育に必要なとなる物理、化学、生物の補充教育「基礎学力充実講義」を開講した。「コミュニケーションⅠ（1. 態度教育）」（カッコ内は歯学部カリキュラム11コースの数字を示す。以下同じ）ではホームルームを通じて自学自習や社会人としての健全な生活態度の涵養を目指した。また「早期臨床体験学習（1. 態度教育）」では本学附属病院で医療現場を体験し、歯科医師になることへのモチベーションを高めた。「現代教養（1. 態度教育）」では、マナー指導、学習態度の確立、プレゼンテーション能力の習得などを通して、歯科医師として必要な素養と思考力、判断力、表現力など様々な状況に臨機応変に対応、解決できる能力を養うことを目的とし、PROGテストを通じて問題解決力、言語処理能力などについて、学生自身が自己分析を行った。情報リテラシー教育は、「情報科学（2. 教養教育）」を必修としており、その中でパソコンのスキルとともに情報化社会に特有の危険性とその対処法を学んだ。

第2学年では「コミュニケーションⅡ（1. 態度教育）」において、ホームルーム、解剖体慰霊祭を通じ、医療従事者としてふさわしい態度、意識を身につけさせた。また、「問題解決基盤（1. 態度教育）」は、アクティブ・ラーニング科目の1つであり、与えられた課題について調査・研究し、グループ発表や討議を行った。

第3学年の「ゼミナール（1. 態度教育）」、「研究チャレンジ（1. 態度教育）」は、演習科目として学生を研究室に配属して行うものである。特に「研究チャレンジ（1. 態度教育）」は、研究マインドを学生に涵養することを目的にしており、リサーチリテラシーを涵養し、SCRIP（スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム）もしくは学生が参加している専門学術大会での成果発表に向けて取り組んだ。なお、2024年度は、第4学年1名がSCRIP日本大会に出場した。

第4学年では、2024年度から公的化となった共用試験歯学生CBT・OSCEの初めての学年であり、全員が合格できるよう指導体制の強化を行い成績の向上を図った。「コアカリに沿った講義Ⅰ～Ⅲ（9. 歯科医学統合教育）」では、CBTで狙われる分野を重点

的に補い、また業者によるC B T 模擬試験を年間3回オンラインで解答させ、不正解の問題を学生間で共有しグループワークを通じて理解を深めた。さらに、担当教員が解説授業を学内で実施した。O S C E については「コアカリに沿った実習（9. 歯科医学統合教育）」を開講し対策を行った。2024年度のC B T 及びO S C E の結果は下表のとおりである。

	受験者	合格者（再試験合格含む）	合格率
C B T	138名	129名	93.4%
O S C E	138名	138名	100%

第5学年では、毎日8時45分から臨床講義（30分間）を、また夕刻16時から総合講義（1時間）を開講している。臨床実習はこの2つの講義の間に行い、臨床実習必携を毎年修正を加えた上で学生に配付し、4月から翌年3月まで天満橋学舎附属病院で実施している。学生専用診療室である8階総合診療室（チェアー33台）においては、保存系3科・補綴系3科の担当患者の一口腔一単位診療を行うとともに、それ以外は「特科実習」として各専門診療科をローテーションするハイブリッド形式で行い、附属病院だけでなく学外の急性期及び回復期病院も利用し、多くの症例を経験できるようにした。

臨床実習の成績評価は、診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（P o s t - C C P X）の評価及び臨床実習完了者審議会での判定をもとに決定する。なお、P o s t - C C P X には臨床実地試験（C P X）と一斉技能試験（C S X）の2つの試験で構成されている。

また、国家試験の早期対策として、年間5回臨床知識試験を実施し、そのうち第4回は第6学年の学士試験と同日、同問題で行った。臨床知識試験の結果も進級の基準としている。

第6学年においては、国家試験に対応するための「総括講義」と「特別講義」や学士試験と本学指定の模擬試験により、成績の向上に努め、きめ細かな指導（特別アドバイザーによる弱点の克服方法のフィードバック及びティーチング・アシスタント（T A）による学修補助等）を行った結果、第118回歯科医師国家試験の合格率は、新卒者が100%となった。なお、本学既卒者についても従来から丁寧な指導を行っている。

歯科医師国家試験 合格率【新卒】（過去5年間）

回数	実施年月	受験者数	合格者数	本学合格率	全国平均
第118回	2025年2月	60名	60名	100%	84.0%
第117回	2024年1月	71名	68名	95.8%	81.5%
第116回	2023年1月	81名	64名	79.0%	77.3%
第115回	2022年1月	70名	58名	82.9%	77.1%
第114回	2021年1月	87名	80名	92.0%	80.2%

2. I R（インスティテューショナル・リサーチ）室の活動

〔2024年度実施分〕

1 歯学部

- （1）2024年度新入生アンケート調査の実施
- （2）2024年度学習実態調査の実施

(3) 2024年度授業評価アンケート調査（前期・後期）の実施

(4) 2024年度卒業時アンケートの実施

2 医療保健学部

(1) 2024年度新入生アンケート調査の実施

(2) 2024年度学習実態調査の実施

(3) 2024年度授業評価アンケート調査（前期・後期）の実施

(4) 2024年度卒業時アンケートの実施

3 看護学部

(1) 新入生授業評価アンケートの実施

対象学生：第1学年99名（2025年3月31日時点在籍者数）

対象科目：開講した全科目で実施

実施期間：半期ごと（各開講科目最終授業終了時）

3. 教育環境の整備

本学では、「教育研究環境の整備の方針」を制定し、その中で「学生の学びについて、多様な授業形態に対応できる環境を整備する。」としている。2024年度は楠葉学舎1号館1～3FにWi-Fi環境を構築した。また、楠葉学舎の第1～5大講義室及び天満橋学舎創立100周年記念館の3～4Fにカメラを数台設置し、防犯対策を強化した。

4. 本学へ献体されたご遺体を用いた手術手技研修（Cadaver Surgical Training）

本学は、厚生労働省の進める医師・歯科医師に対する教育・研究の場を提供する体制として、大阪歯科大学CST委員会を設置（2020年8月）し、医師・歯科医師の医療技術や医療安全の向上に努めており、2021年度から標記の研修を実施している。

2024年度は、下記の日程で研修を実施した。

実施日：2024年9月28日（土）・29日（日）

課題名：歯科医師のためのカダバー・サージカル・トレーニング

～安全なインプラント外科・歯周外科を目指して～

参加人数 24名 見学者 28名

実施日：2024年10月13日（日）・14日（月・祝）

課題名：超音波装置を用いたカダバー・サージカル・トレーニング

～安全な施術、リハビリテーションを目指して～

参加人数 6名 見学者 57名

実施日：2024年12月1日（日）

課題名：歯科医師のためのカダバー・サージカル・トレーニング

～大規模災害のライフライン未復旧での状況を想定した身元確認訓練～

参加人数 6名 見学者 11名

5. 入学志願者増加への取り組み（学生の受け入れ）

○アドミッション・ポリシー

歯学部歯学科では、先輩たちが弛まぬ努力で築いた礎を守りながら、「博愛」と「公益」の建学の精神に基づき、新時代の人々の口腔の健康を守る歯科医療を担うことのできる人材を養成する。そのため、次のような能力や態度・資質を備えた人を求める。

【求める人物像】

- ・ 歯科医学を学ぶために十分な基礎学力を有する人
- ・ 医療人として社会に奉仕し貢献する使命感と気概を持つ人
- ・ 科学的な探究心を持って考え、自ら努力する人
- ・ 十分なコミュニケーション能力を有し、協調性のある人
- ・ 専門的知識、技能、態度を修得して、国家資格の取得に向けて着実に努力する人
- ・ グローバルな視野に立って歯科医学の発展と歯科医療を担う熱意のある人
- ・ 歯科医師としての倫理観、世界観などを備える幅広い豊かな人間力と行動力を持っている人

【入学までに修得しておいてほしい学習成果と水準】

歯学部歯学科で学ぶ歯科医学は実学である。これまでに学んだことを、患者をはじめ多くの人々と関わりながら医療の現場で実際に使うことができる能力が求められる。そのため、高校教育で培われた「学力の3要素」（1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度）を大学教育で更なる伸長を図るため、次に掲げる知識や技能・思考力・判断力・表現力・多様な人々と協働する精神・態度などを備え、入学後の学びに主体的に取り組むことが望まれる。

□知識・技能

- ・ 歯科医学の基礎となる生命科学に関連する数学、理科（物理・化学・生物）の学力
- ・ 高等学校の教育課程における、英語の一般的な読解力、及び基本的な文章力とコミュニケーション能力
- ・ 高等学校の教育課程における、幅広い教科・科目を修得し、論理的に文章を読み解き、自分の考えを論理的に文章として書くことのでき、又、発表することのできる基礎学力

□思考力・判断力・表現力

- ・ 様々な現象について自ら調べ、科学的・論理的に考えることができる
- ・ 他者の意見に耳を傾け、自分の考えを適切に相手に伝えることができる

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・ 倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にする態度
- ・ 主体的に生徒会活動や特別活動、ボランティア活動などの課外活動に参加し、他者と協調しながら行動しようとする姿勢

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜方法として、学校推薦型選抜（指定校専願制・公募併願制）、一般選抜（前期・後期）、大学入学共通テスト利用選抜（前期・後期）、プラス1、私費外国人留学生入

学者選抜、転入学・編入学試験というさまざまな入学者選抜方式を採用し、総合的に判断し、多様な人材を受け入れることをめざす。

□知識・技能

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□思考力・判断力・表現力

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

面接、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

歯学部は、アドミッション・ポリシーのもと、優秀な学生の確保に取り組んだ。アドミッションセンターは、センター長1名と事務職員5名で構成されている。

オープンキャンパスについて、コロナ禍前の従来の実施で開催した。7月28日に楠葉学舎、8月25日に天満橋学舎にて、来場型形式で開催し、合計294組（楠葉172組＋天満橋122組）が参加した。さらに、オンライン型のオープンキャンパスプログラムとして、有名予備校講師による入学者選抜対策講座を2024年8月6日から11月18日までの間に配信し、総視聴回数は、315回（英語119回、数学87回、物理27回、化学43回、生物39回）。

入学者選抜については、一般選抜では、昨年導入した新制度のチョイス2・1などのオプション制度や、大学入学共通テスト利用選抜でのオンライン面接などを継続実施した。また、一般選抜（前期）の翌日に一般選抜（全学部日程）を新設し新たな志願者層の開拓に努めた。それに加え、従来の「面接免除制度」、「インターネット出願」、取得時期不問の「英語民間試験利用方式」を継続し、出願促進の方策を実施した。「英語民間試験利用方式」とは、英語の各種資格・検定試験（注）の結果に基づいて、一定の基準を満たしている場合は、平均点又は平均点＋10点を保証、あるいは「外国語（英語）」の受験を免除する制度である。

（注）英語の各種民間資格・検定試験について

試験名/CEFR	CEFR B1 平均点	CEFR B2 平均点＋10点
英検®（CBT/ S-CBT 含む）	2級 1980～2299 1級 1980～2303	準1級、1級 2304以上
Cambridge English	140以上	160以上
GTEC	960以上	1190以上
TOEIC®（L & Rのみ）	550以上	785以上
TOEIC®（L & R + S & Wの合計）	790以上	1095以上
TOEFL iBT®	42以上	72以上
TEAP（4技能）	225以上	309以上
TEAP CBT（4技能）	420以上	600以上

・いずれも取得時期は問わない。・GTEC はオフィシャルスコア（検定受験の成績）のみを認める。・TOEFL ITP テスト、TOEIC L&R IP テスト・TOEIC S&W IP テストは対象とはならない。・TOEFL iBT®は MyBest ™スコアも認める。・換算得点は 100 点を上限とする。

試験場は、大阪会場のほか、一般選抜（前期）において、東京会場、名古屋会場、広島会場、福岡会場を、一般選抜（全学部日程）では、東京会場、一般選抜（後期）では、東京会場、福岡会場を設置し受験生の受験機会の拡大に努めた。

入学者選抜成績優秀者特待生制度については、6 年間の学納金が国立大学と同額となるようにその差額分を減免する制度を新設することで充実を図り、優秀な学生の確保に努め特待生に認定された者のうち 1 名が入学した。なお、学校推薦型選抜公募併願制及び一般選抜（前期）における制度であり、概要は以下のとおりである。

免除額		6 年間免除総額	対象人数
1 年次	2 年次以降		
4,614,200 円	4,614,200×5 年間	27,685,200 円	学校推薦型選抜 （公募併願制）1 名 一般選抜（前期）2 名

※国立大学の授業料の年額は、平成十六年文部科学省令第十六号 国立大学等の授業料その他の費用に関する省令による。

2024 年度入学者選抜時に比べ 18 歳人口がほぼ横ばいに推移した年度ではあったが、一般選抜（前期）の日程が他大学と重複した影響で、本学の入学者選抜志願者数は前年に比べ減少はしたが、募集人員である 128 名を充足することができた。これまでの本学の地道な入試広報活動に加え、入学者選抜制度の改革や入学者選抜成績優秀者特待生制度の新設などの一定の活動が実を結んだ結果であると考ええる。なお、転入学・編入学試験については、2 名の受験生がおり 1 名が合格し入学した。

6. 学生支援体制

歯学部では、学年指導教授・助言教員のほかに特別アドバイザー、及び歯科医学教育開発センター所属の教員を教育アドバイザーとして配置し、特に助言教員・特別アドバイザーは、専任教員のうち、学生教育に熱意のある者から選任しており、カリキュラムに定める講義・実習とは別に、自己の担当する学生に対して、個別に学習支援及び生活指導を行った。各支援の記録は教務システム・学生カルテに蓄積し、歯学部教務部委員会で報告し必要に応じて歯学部主任教授会においても報告した。

学生の研究マインドの涵養としてオナーズ教育を展開している。その一環として、英会話の能力向上を目的とした「グローバル活躍プログラム」を実施した。これは、近年要求される英語での論文発表や、短期海外研修、SCRIP へのエントリーなどグローバルに活躍できる人材の育成を目指し、英会話能力向上のため英会話業者のレッスン料を全額又は半額を負担するもので、2024 年度は 28 名が取り組み、そのうち全額補助者が 7 名、半額補助者が 3 名であった。（2023 年度は 33 名）。

奨学金その他の経済的支援の整備として、入学試験成績優秀者に対して授業料の全額又は一部を免除する制度や、前年度の学業成績優秀者に授業料の一部を免除する特待生制度がある。さらに「大阪歯科大学歯学部奨学金（貸与型）」や「大阪歯科大学共済会奨学費（貸与型）」を設けており、2024年度の実績として、歯学部奨学金は6名、共済会奨学費は15名に貸与した。

健康管理については、「医務室」に平日は看護師が、また、毎週火・金曜日は医師（非常勤）が在室し学生・教職員への対応を行った。また、楠葉学舎と天満橋学舎の「学生相談室」に専門の臨床心理士（非常勤）を置き、学生の抱える問題に対応した。なお、楠葉学舎では適宜電話相談を行った。

定期的に学生部長、学年指導教授、助言教員又は特別アドバイザー、教務学生課職員、臨床心理士及び看護師により、相談内容について共有を図り、解決に向けての協議を行った。

大学院歯学研究科の取り組み

大阪歯科大学大学院歯学研究科は、大学院生に歯学・口腔科学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的としている。

そして、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れ方針（アドミSSION・ポリシー）を定めている。

○ディプロマ・ポリシー

歯学研究科に必要な年限在学して所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した次の者に博士（歯学）の学位を授与する。

- ・口腔科学研究を担う高度の専門知識と技術を修得して発展できる。
- ・口腔科学に根ざした高度の医療技術を修得して応用できる。
- ・研究者あるいは医療人として高い教養を身に付けて展開できる。
- ・国際社会で医療人として貢献できる。

○カリキュラム・ポリシー

歯学研究の目的である口腔科学の進歩に貢献し得る研究者を養成するために各専攻科で履修する講義、実習及び学位論文の作成に関する充実したカリキュラムを策定している。

主科目に関しては研究成果に基づき評価し、有為な人材育成を図っている。

- ・生命科学の基盤の上に歯学並びに関連諸分野に関する深い洞察力和専門的知識の修得に加えて、課題探求能力を備えた研究者並びに高度な知識と技術を有する専門職業人養成のための教育を行う。
- ・自立して研究を行うために必要な英語、研究倫理、研究手法などの実践的教育を行う。
- ・先進的な口腔科学に関する研究を遂行できる能力を確立する。

- ・ 全身との関わりの中で口腔科学研究を遂行できる医療人を育成する。
- ・ 高い教養と学際的視点を涵養し、国際社会に貢献できる研究能力を獲得する。

○アドミッション・ポリシー

建学の精神である「博愛と公益」の精神を享受し、次世代の研究者・教育者としての基礎知識を有し、歯科医学の知のフロンティアを自ら率先して開拓する強い意欲を有する人を求める。

- ・ 口腔科学に探究心をもつ人。
- ・ 高い倫理観とコミュニケーション能力を備えている人。
- ・ 幅広い視野をもち、創造性とチャレンジ精神に富む人。
- ・ 自ら問題を発見し、解決する力を備えている人。
- ・ グローバルな視野と語学力を身に付け、国際貢献を目指す人。

1. 海外学会発表助成及び学術研究奨励助成金について

大学院生の海外学会発表助成は4件であり、大学院生の研究14件に対して、学術研究奨励助成金として総額で250万円の助成を行った。

2. ティーチング・アシスタント、ポスト・ドクトラルフェロー採用について

ティーチング・アシスタントは、学部学生に対する教育補助として30名を採用し、資質向上を図るための研修を2024年5月に実施した。また、ポスト・ドクトラルフェローは、専門的研究に従事するものであり、1名を採用した。

3. 大学院生の入学者増加策等

臨床研修歯科医を対象に入試説明会を行った（2024年7月3日）。

2025年度入試（2024年度実施）は、34名（定員30名）の入学者であった。このうち、外国人留学生特別選抜での入学者は10名、社会人特別選抜入学者は1名であった。

4. 大学院FDについて

2025年2月6日「臨床研究のすすめ -研究計画から論文投稿まで-」をテーマに、小野 高裕教授（高齢者歯科学講座）を講師に実施した。

Ⅲ. 医療保健学部（口腔保健学科・口腔工学科）・大学院医療保健学研究科

1. 医療保健学部（口腔保健学科・口腔工学科）設置の趣旨

大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科・口腔工学科は、超高齢社会が必要とする優れた歯科医療人を養成し、口腔の健康を通じて国民が健康で安心して暮らせる社会づくりに貢献することを設置の趣旨としている。

2. 学修への取り組み

医療保健学部では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを定め、様々な課題解決のため精力的に取り組んだ。

○ 医療保健学部のディプロマ・ポリシー

専門技能に加えて、「博愛」の精神を以て患者が抱える問題を解決するとともに、自らが得た知識や考案した技能を「公益」の精神を以て世に提案して社会に貢献できる人材を輩出する。

- ・医療に係わる専門職としての基本的な知識力、技能力、判断力、問題解決力を有している。
- ・情報システムを用いて医療保健に関する情報収集、分析、課題解決及び提示ができる。
- ・科学的探究心と向上心を有し、今後の歯科医療を担える。
- ・医療、福祉及び関連する制度に関する広い知識をもち、人々の口腔の健康に寄与できる。
- ・人と温かく接し、歯科医療を通じて社会に貢献する高い倫理観と人間性を持っている。

○ 口腔保健学科のディプロマ・ポリシー

医療保健学部のディプロマ・ポリシーに加えて、以下の能力を身に付けた者に学位を授与する。

- ・口腔の健康を守る専門職としての十分な知識と技能を身に付けている。
- ・医療・福祉分野と多職種連携を図り、ケアプランを策定・実践できる医療専門職として、超高齢社会で主導的に活躍できる。
- ・口腔の健康に関する問題の抽出力と解決能力を有している。

○ 口腔工学科のディプロマ・ポリシー

医療保健学部のディプロマ・ポリシーに加えて、以下の能力を身に付けた者に学位を授与する。

- ・口腔の健康に寄与できる専門職としての十分な知識と高い技能を身に付けている。
- ・医療・福祉分野と多職種連携を図り、知識と技能の提供と適切な提案ができる医療専門職として、超高齢社会で主導的に活躍できる。
- ・口腔工学の発展に寄与し、歯科医療を向上させる能力を有している。
- ・患者とのコミュニケーションを通じて、口腔内装置に関する問題の抽出と解決能力を有している。

○医療保健学部のカリキュラム・ポリシー

幅広い知識や技能を修得し、「博愛」の心を持ち、柔軟に対応できる口腔保健学士及び口腔工学士を育成するために必要な教育を施し、歯科医学・歯科医療に携わる人材を輩出する。

○口腔保健学科のカリキュラム・ポリシー

歯科医療人としての欠かせない基礎歯科医学、臨床歯科医学のほか、キャリア形成と福祉に関する幅広い教養とコミュニケーション能力を修得させ、問題解決能力と向上心を醸成するとともに、超高齢社会や情報化社会に適応する歯科医療専門職として必要な口腔保健に関する知識と技能を修得させる。

修得概要

- ・ 早期臨床体験学習やボランティア活動、臨地・臨床実習を通して、建学の精神である「博愛」と「公益」の心を育成し、良識豊かな倫理観を持つ人間力を養成するとともに患者とのコミュニケーション能力を育成する。
- ・ 一般教養科目を配置し、社会人としての素養を身に付ける。
- ・ 基礎系口腔科学、社会系口腔科学、臨床系専門教育及び臨床教育によって歯科衛生士としての知識と技能並びに自主的に問題を抽出して解決する基本的能力を育成する。
- ・ 口腔工学科と合同の授業、医学及び福祉に関する科目を通して、医療コミュニケーションと多職種連携能力を養成し、医療人としての自覚を醸成する。
- ・ 「高齢者歯科学」、「口腔保健訪問実習」などの高齢者を対象とした科目を充実させるとともに機能的ケアにも重点を置き、超高齢社会に適応する人材を養成する。
- ・ 情報科学とデジタル技術に関する科目によって今後の医療 DX（デジタル・トランスフォーメーション）に対する適応能力を獲得する。
- ・ 総括教育で自らテーマを決めて探求し、プレゼンテーションすることで、向上心と歯科医療を発展させる能力を養う。

教育方法

- ・ シラバスに沿った講義、基礎実習及び臨地・臨床実習
- ・ 主体的な学修と協調性を高めるアクティブラーニングとグループ学習
- ・ 実践的な臨床の現場における臨床実習
- ・ 歯科医療の情報・デジタル化に応じた講義と実習
- ・ 複数の資格を目指せる自由科目・コース

学修成果の評価

- ・ 各科目のシラバスに示す成績評価
- ・ 知識と技能を評価する学士試験
- ・ 年度当初に行う実力試験
- ・ 学内外の模擬試験

○口腔工学科のカリキュラム・ポリシー

歯科医療人として欠かせない基礎歯科医学、臨床歯科医学のほか、キャリア形成と福祉に関する幅広い教養とコミュニケーション能力を修得させ、問題解決能力と向上心を醸成するとともに、超高齢社会や情報化社会に適応する歯科医療専門職として必要な口腔工学に関する知識と技能を修得する。

修得概要

- ・「早期臨床体験学習」やボランティア活動、「医科歯科連携学実習」及び「口腔工学病院臨床実習」を通して、建学の精神である「博愛」と「公益」の心を育成し、良識豊かな倫理観を持つ人間力を養成するとともに患者とのコミュニケーション能力を養成する。
- ・一般教養科目を配置し、社会人としての素養を身に付ける。
- ・基礎系口腔科学、社会系口腔科学及び新しい技工技術を充実させた臨床系専門教育と臨床教育によって、歯科技工士としての知識と技能並びに自主的に問題を抽出して解決する基本的能力を育成する。
- ・口腔保健学科と合同の授業、医学及び福祉に関する科目を通して、医療コミュニケーションと多職種連携能力を養成し、医療人としての自覚を醸成する。
- ・情報科学とデジタル加工技術に関する科目によって、今後の口腔内装置の製作と医療 DX（デジタル・トランスフォーメーション）に対する適応能力を獲得する。
- ・高齢者歯科学、口腔工学訪問実習など的高齢者を対象とした科目を充実させ、超高齢社会に適応する人材を養成する。
- ・総括教育で自らテーマを決めて探究し、プレゼンテーションすることで、向上心と歯科医療を発展させる能力を養う。

教育方法

- ・シラバスに沿った講義と基礎実習
- ・主体的な学修と協調性を高めるアクティブラーニングとグループ学習
- ・附属病院における実践的な臨床実習
- ・歯科医療の情報・デジタル化に応じた講義と実習
- ・複数の資格を目指せる自由科目・コース

学修成果の評価

- ・各科目のシラバスに示す成績評価
- ・知識と技能を評価する学士試験
- ・年度当初に行う実力試験
- ・学内外の模擬試験

1) 教育環境の整備

学部の特徴として、学生には入学時に一人1台のノートPCを貸与しており、学修支援ポータルサイト「A-portal」を使用し、学生への諸連絡や学生と教員間のコミュニケーション

ンを行うとともに、学生自身が授業の出欠管理、課題提出、履修や成績管理を行うことのできる環境を整えている。

このシステムはクラウドサーバーを使用しており、インターネットに接続できる環境であればどこからでもアクセスでき、本学の教員だけでなく、学外の非常勤講師からも利便性が高く、学生と教員との円滑なコミュニケーションときめ細やかな学習サポート体制を実現している。

2) 臨床実習等

学部の特徴として、口腔保健学科の口腔保健臨床実習は、2年生で保育園・幼稚園・こども園、3年生で小・中学校、支援学校、保健センター等において、歯科検診補助実習、集団歯科保健指導実習を学修し、口腔工学科は、3年生には口腔デジタル技工学実習において、CAD/CAM システムにおけるデジタル技術知識を学修する。両学科3年生対象の医科歯科連携学実習は、チーム医療の重要性を理解し、多職種医療従事者との連携を図る知識を学修し、4年生での訪問実習においては、近年ますます重要性が問われている歯科訪問診療に同行し、心得、準備等をはじめとした業務全般を学修することができる。

また、3年生から始まる口腔保健学科の口腔保健臨床実習では、本学附属病院での様々な診療科において学修できる他、外部の病院にも訪問し実践能力を身に付けることができ、口腔工学科の口腔工学病院臨床実習では、本学附属病院の中央技工室において、臨床現場において、口腔内装置が利用されている状態を見学し、技能向上を目指している。

これらの学修は、2023年度からは完全に新型コロナウイルス感染症の影響を受けず、全学生に対して学修時間の確保を継続している。

3) 国家試験対策

第5期生の国家試験合格率100%の達成に向けて、国家試験対策講座を国家試験直前まで継続して実施した。学習指導強化を図るため、各学科において対象学生を選定し、担当教員は、学生との面談を踏まえ、具体的な学習計画を立案し個別指導を行った。

その結果、「第34回歯科衛生士国家試験」及び「令和6年度歯科技工士国家試験」において、4年連続で、合格率100%を達成した。

・第34回歯科衛生士国家試験

口腔保健学科64名が受験し、64名全員が合格。

・令和6年度歯科技工士国家試験

口腔工学科18名が受験し、18名全員が合格。

・第37回社会福祉士国家試験

13名（新卒8名・既卒5名）が受験し、新卒者8名（新卒者8名、既卒者0名）が合格。

3. 学生の受け入れ

○アドミッション・ポリシー

医療保健学部が求める学生は、「思いやりの心を持ち、人と温かく接して協調性とコミュニケーション能力に優れ、医療と福祉に高い関心と学習意欲を持ち、社会に貢献できる医

療人となるための絶え間ない学習と努力ができる者」である。

各学科のアドミッション・ポリシーは次のとおり。

【口腔保健学科】

口腔の健康に寄与するためには、自らを律し、社会及び他者のために奉仕する気概を持つことが求められる。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、歯科医療の発展のために独創性がある発想を持つことが必要であり、口腔保健学科として次のような学生を求める。

【求める人物像】

- ・ 口腔保健学を学ぶための十分な基礎学力を有する人
- ・ 社会に奉仕し貢献する使命感と気概を持つ人
- ・ 既存の概念にとらわれず、科学的知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・ 他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・ 自己の健康管理に努め、自己を律することができる人
- ・ 人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人
- ・ 口腔の衛生管理に強い関心がある人

【入学までに修得しておいてほしい学習成果と水準】

医療保健学部口腔保健学科で学ぶ口腔保健学では、歯科医療の場において多くの人々と協働しつつ、患者のみならず一人一人の口腔と全身の健康のために学習した知識と技能を使うことができる能力が求められる。この能力を身につけるためには、「学力の3要素」(1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)が重要であり、後期中等教育(高等学校)での標準的な水準の能力を持つことが望まれる。

□知識・技能

- ・ 特に「英語」、「数学」、「国語」及び「生物」について高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する。
- ・ 多様な文章を読解して論旨を把握する能力を有する。
- ・ 他者とコミュニケーションをとりながら協同して活動できる能力を有する。

□思考力・判断力・表現力

- ・ 様々な現象について自ら調べ、科学的・論理的に考えることができる。
- ・ 自身の状況や能力を判断して、課外活動に参加して活動できる。
- ・ 健康に興味を持ち、得た情報を適切に判断して応用する技能を有する。
- ・ 自身の考えを論理的な文章や言葉で表現できる能力を有する。

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にする態度
- ・自身の状況や能力を判断して、課外活動に参加して他者と協調して活動する姿勢

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜方法として、総合型選抜、学校推薦型選抜（指定校専願制・公募併願制）、一般選抜（前期・後期）、大学入学共通テスト利用選抜（前期・後期）、私費外国人留学生入学者選抜、編入学試験というさまざまな入学者選抜方式を採用し、総合的に判断し、多様な人材を受け入れることをめざす。

□知識・技能

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□思考力・判断力・表現力

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

面接、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

【口腔工学科】

口腔の健康に寄与するためには、自らを律し、社会及び他者のために奉仕する気概を持つことが求められる。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、口腔装置の製作技術に優れ発展させるためには科学技術への関心と開発への興味が必要であり、口腔工学科として次のような学生を求める。

【求める人物像】

- ・口腔工学を学ぶための十分な基礎学力を有する人
- ・社会に奉仕し貢献する使命感と気概を持つ人
- ・既存の概念にとらわれず、科学的知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・自己の健康管理ができる人
- ・人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人
- ・製作意欲が高く、創意工夫ができる人

【入学までに修得しておいてほしい学習成果と水準】

医療保健学部口腔工学科で学ぶ口腔工学では、学修した知識と技能を用いて歯科医師や患者をはじめとする多くの人々とコミュニケーションをとりながら一人一人に適した口腔関連装置を製作できる能力が求められる。この能力を身につけるためには、「学力の3要素」

(1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)が重要であり、後期中等教育(高等学校)での標準的な水準の能力を持つことが望まれる。

□知識・技能

- ・特に「外国語(英語)」、「数学」、「国語」、「生物」、「物理」及び「化学」について、高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する人
- ・多様な文章を読解して論旨を把握する能力を有する。
- ・他者とコミュニケーションをとりながら協働して活動できる能力を有する。

□思考力・判断力・表現力

- ・様々な現象について自ら調べ、科学的・論理的に考えることができる。
- ・健康に興味を持ち、得た情報を適切に判断して応用する技能を有する。
- ・自身の考えを論理的な文章や言葉で表現できる能力を有する。

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にする態度
- ・自身の状況や能力を判断して、課外活動に参加して他者と協調して活動する姿勢

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜方法として、総合型選抜、学校推薦型選抜(指定校専願制・公募併願制)、一般選抜(前期・後期)、大学入学共通テスト利用選抜(前期・後期)、私費外国人留学生入学者選抜、編入学試験というさまざまな入学者選抜方式を採用し、総合的に判断し、多様な人材を受け入れることをめざす。

□知識・技能

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□思考力・判断力・表現力

個別学力試験、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

面接、小論文、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

2024年度は、来場型オープンキャンパスを3キャンパスにおいて全7回実施し、またスタッフが個別に牧野キャンパスを案内する個別見学型オープンキャンパスも実施した。

【2024年度オープンキャンパス】（人数：受験対象者、保護者の合計）

第1回	3月24日（日）	牧野学舎	49名
第2回	5月26日（日）	牧野学舎	68名
第3回	6月16日（日）	牧野学舎	71名
第4回	7月28日（日）	楠葉西学舎	86名
第5回	8月8日（木）	天満橋学舎	30名（口腔工学科限定）
第6回	8月18日（日）	牧野学舎	122名
第7回	9月8日（日）	牧野学舎	54名
【個別見学型】2024年度		牧野学舎	10名

以上、7回の来場型オープンキャンパスと個別見学型オープンキャンパスの参加延べ人数（生徒のみ）は、490名であった。

その他、大阪府・京都府・兵庫県を中心に高等学校訪問、校内での入試ガイダンスを実施、近畿・中四国を中心に会場での進学相談会に参加し、進学情報ウェブサイトへの入試情報の掲載など、積極的に広報活動を展開した。

2025年度入学者選抜では、総合型選抜において口腔工学科対象の専門・総合学科特色型や女子生徒のみ出願できるダイバーシティ型を新設、一般選抜において一般選抜（全学部日程）の新設や一般選抜（後期）の選抜方法を変更するなど入学者選抜制度を変更し受験生確保に努めた。

また、一般選抜（前期）、大学入学共通テスト利用選抜（前期・後期）の受験生を対象とした入学者選抜成績優秀者特待生制度を設け、優秀な学生の確保に努めた。この制度で特待生に認定された者のうち2名の学生が入学したことから一定の効果があったのではないかと考える。

【入学者選抜成績優秀者特待生制度】

内容	免除額	対象人数
授業料4年間全額免除	（前期42万円+後期42万円）×4年 合計336万円	対象者3名

以上、学生募集広報活動の結果、医療保健学部の9期目の入学者数は、口腔保健学科で71名、口腔工学科は29名となり学部全体で募集人員である100名を充足することができた。

4. 就職支援の取り組み

医療保健学部では、牧野学舎福利厚生棟1階にキャリアセンターを設置し、就職支援システムを活用した求人情報の提供、就職相談や面接指導など、学生の就職活動をサポートし、定期的にキャリアセミナー、就業体験事業、業界研究セミナーなども開催している。

第5期卒業生の進路について、口腔保健学科においては、歯科診療所、総合病院と附属病院に就職し、口腔工学科においては、歯科技工所、歯科系企業や総合病院など就職先は

多岐にわたる結果となった。

第5期卒業生

【口腔保健学科】

求人数 1,299人 (20.3倍) (※1)

就職 64名、その他 (活動中等) 1名

・ 総合病院	29.7%
・ 歯科診療所	67.1%
・ 本学附属病院	1.6%
・ その他	1.6%

【口腔工学科】

求人数 311人 (15.5倍) (※1)

就職 16名、その他 (本学大学院進学など)
4名

・ 歯科技工所	50.0%
・ 総合病院	10.0%
・ 歯科系企業	5.0%
・ 他業種	5.0%
・ その他 (進学含む)	30.0%

(※1) 求人数は、医療機関のみの数字

5. 学部独自の取り組み

1) 社会連携活動

2024年度は、6月1日(土)寝屋川市「歯の健康展・市民の集い」、翌週6月8日(土)枚方市保健センター「ウォーキングイベント」に、学部学生及び教員がボランティアとして参加し、災害時の歯科グッズの備えや歯磨き・お口のケアの仕方などの資料配布や説明を行った。また、7月25日(木)には、枚方市内の小学生を招いての「歯科大わくわくキッズセミナー@まきの」を開催。学部学生が説明・指導し、小学生は歯とお口について楽しく学ぶ機会となり、好評のうちに終了した。

2) 2024年度生涯学習セミナー

2024年度は、10月12日(土)、楠葉西学舎において、学内外の講師による、「デジタル化の本質と誤差の要因」、「米国デジタル技工の現状」の2演題のセミナーを開催し、医療・福祉関係者、本学部学生を含む、44名が参加した。

2025年2月8日(土)には、天満橋学舎創立100周年記念館4階大講義室において、外部講師を招き、社会福祉セミナー「発達障害のある若者への関わり方」と題して、「発達障害」に関する理解を深める講演が行われ、学内外から29名が参加した。

6. 大学院医療保健学研究科

【口腔科学専攻 (修士課程)】

○ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻 (修士課程) では、修了までに所定の単位を修得し、修士論文の審査及び試験に合格した者に修士 (口腔科学) の学位を授与します。修得を必要とする能力は次のとおりです。

1. 医療保健学を発展させて人の健康に寄与する研究・開発ができる。
2. 医療保健学に関する先進の高度な専門的知識と技能を持つ。
3. 専門的知識と技能を教育できる。

4. 医療保健学に関する広い見識を持つ。
5. 国際的視野を持つ医療人として活躍できる。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）では、学生をディプロマ・ポリシーの示すレベルに到達させるために、次のカリキュラム・ポリシーを設定しています。カリキュラム・ポリシーに基づいて必要な科目を配置し、教育課程を編成、実施します。そして、レポート、プレゼンテーション及び討議への参加に重点を置いて各科目の到達度を評価するとともに、修士論文を厳正に審査します。

1. 研究に関する基礎的な学修を通じて、研究の立案、計画及び実行能力を身に付ける。
2. 統計手法の学修を中心に、研究情報の集計・分析能力を身に付ける。
3. 論文作成やプレゼンテーション法を学修し、研究結果を提示する能力を身に付ける。
4. 研究実習によって、医療保健学を発展させる能力を養う。
5. 専門性の高い科目によって高度な専門的技能と知識を涵養する。
6. 教育学に関する科目を設け、教育力を養成する。
7. 歯科衛生士と歯科技工士との合同の科目で広い視野を養う。
8. 英語科目と国際医療に関する科目によって、高い語学力と国際的視野を養う。

○アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）が求める学生は、医療人としての倫理観を持ち、人の健康を口腔を通じて維持・向上させる意欲をもって研究や教育に取り組む努力ができる者です。また、歯科衛生士と歯科技工士の両方が交流して学修するため、それぞれの専門のみならず、広く医療保健学としての学術的探究心やコミュニケーション能力を持つことを求めます。

上記の考えから、アドミッション・ポリシーを定め、次のような学生を求めます。

1. 歯科衛生士又は歯科技工士の資格を持ち、本学大学院課程の履修に必要な学力を持つ者
2. 医療保健学への学術的探究心と発展に貢献する意欲を持つ者
3. 基本的な情報処理ができる者
4. 自ら問題を発見し、解決する力を備えている者
5. 高い倫理観とコミュニケーション能力を備えている者
6. 学士課程修了レベルの英語を修得している者

高度な専門的知識と技能を持つとともに歯科医療の変革に応じられる歯科医療人、並びに歯科衛生士や歯科技工士の専門性を生かした研究を通じて歯科医療の発展に貢献できる人材を養成して歯科医療の発展と人々の健康の増進に寄与することを目的としている。修業年限は2年、入学定員は10名である。教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定めて学生募集活動を行った結果、2025年度は4名が入学した。口腔科

学専攻（修士課程）の教育課程は、基礎科目、専門科目、専門研究の3つの科目群にカリキュラムを分類するとともに7つの研究分野を設けて行われている。2025年3月の修士（口腔科学）の学位取得者数は5名であった。

【口腔科学専攻（博士課程（後期））】

○ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）では、修了までに所定の単位を修得し、博士論文の審査及び試験に合格した者に博士（口腔科学）の学位を授与します。修得を必要とする能力は次のとおりです。

1. 医療保健（口腔保健学、口腔工学）における独創的な研究を自立的に立案し実践できる。
2. 他の機関と協力して研究・開発できる。
3. 医療保健（口腔保健学、口腔工学）に関する教育者や研究者を養成する指導力を持つ。
4. 教育、医療及び研究機関における管理能力を持つ。
5. 広い視野をもって教育と研究を遂行できる。

○ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）では、学生をディプロマ・ポリシーの示すレベルに到達させるために、次のカリキュラム・ポリシーを設定しています。カリキュラム・ポリシーに基づいて必要な科目を配置し、教育課程を編成、実施します。そして、レポート、プレゼンテーション及び討議への参加に重点を置いて各科目の到達度を評価するとともに、博士論文を厳正に審査します。

1. 研究指導論を学修して、口腔保健学や口腔工学に関する研究指導者としての能力を身に付ける。
2. 高度専門研究を通じて博士水準の口腔保健学や口腔工学に関する研究力を身に付ける。
3. 人材管理と組織運営を学修して、歯科衛生士や歯科技工士の教育・研究における管理者能力を養成する。
4. 企業や他分野の研究や労働衛生の学修から研究者としての素養を高める。

○ アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）が求める学生は、医療人としての倫理観を持ち、医療保健学、特に口腔保健学や口腔工学に関する教育と研究能力を持ち歯科医療の発展に貢献する強い意欲を持つ者です。上記の考えから、大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）におけるアドミッション・ポリシーを定め、次のような学生を求めます。

1. 医療保健学（口腔保健学、口腔工学）に関連する基本的な研究能力を持つ者
2. 医療保健学（口腔保健学、口腔工学）に関連する学生に対する教育ができる者
3. 歯科医療の発展に貢献する強い意欲を持つ者
4. 学術研究に必要な外国語の語学力を持つ者

5. 本学大学院博士課程（後期）の履修に必要な専門的知識と技能を持つ者
6. 医療人にふさわしい倫理観を持つ者

歯科衛生士、歯科技工士に関係が深い口腔科学分野での研究能力を高めるとともに、研究指導者としての能力、併せて教育研究機関における管理能力を持つことを目標としている。修業年限は3年であり、2025年度は4名が入学した。教育課程は、共通科目、専門科目、専門研究科目の3つの科目群にカリキュラムを分類するとともに、3つの研究領域を設けて体系的に教育を行っている。2025年3月の博士（口腔科学）の学位取得者数は4名であった。

7. 医療保健学部・歯科衛生士研修センター

厚生労働省による「平成30年度歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業実施団体公募要領」に基づき、応募し、採択され、実施団体の委託を受け、開設した大阪歯科大学歯科衛生士研修センターは、委託期間の5年間で、延べ171名の受講生が研修を受けた。

2022年度で5年間の委託期間が終了し、2023年度からは、附属病院管轄から医療保健学部に移管となり、医療保健学部のリカレント教育部門を担うこととなった。大学独自の事業として、従来の事業（復職支援・離職防止）を継承しつつ、生涯学習を視野に入れ、更なる発展的事業展開を行うこととした。

会員登録制を導入し、これまでの「A 専門基礎研修」（14コースから選択）と、「C 臨床研修」（9診療科から選択）の研修時間を凝縮し、より学びやすくした。修了証書交付の要件は、「A 専門基礎研修」6回以上の受講並びに「C 臨床研修」を6日以上行うことにより認めることとした。なお、日本歯科衛生士会の第5次生涯研修制度（2）特別研修の3単位の取得が可能となる。

また、新たに「B 自己学習研修」を新設した。一年を通じて、自らが計画して決めた研修内容に沿って研修センターの器材や動画の媒体などを活用して研修を行うというコースである。

2024年度で会員登録者は96名となり、「A 専門基礎研修」は延べ152名、「C 臨床研修」は延べ49名の研修が行われた。また、卒直後歯科衛生士を対象に行った「フォローアップ研修（習熟コース）」では4つのコースを設け、延べ31名が参加した。

例年開催している「公開セミナー」は「専門性と多様性 歯科衛生士キャリアにおける次世代パラダイム」をメインテーマとして、2024年11月10日に大阪歯科大学創立100周年記念館4階大講義室にて開催した。後日、オンデマンド配信も行った。（配信期間：11月22日～12月1日）。会場参加とオンデマンド参加者を合わせて52名（会場参加29名）が受講した。受講後アンケートは、31名から回答があった。また、口腔内スキャナー講習会（歯科衛生士養成校教務対象）や歯科英語講座の企画も加え、受講者からは高評価を得た。

IV. 看護学部看護学科

1. 看護学部看護学科設置の趣旨

大阪歯科大学看護学部看護学科は、高齢化に伴う疾病構造の変化、地域包括ケアシステムや多職種連携推進を含む健康増進の施策など、医療・看護を取り巻く社会情勢の変化等により多様化・複雑化する看護職へのニーズに応えるため、確かな看護実践力を備えた質の高い看護職を養成することに加え、歯学部・医療保健学部との協働による多職種連携の展開や、地域住民との交流を深めるなどの特色ある教育研究の実現を目指している。

2. 学修への取り組み

「学修者本位」の教育を実現するため、看護学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を基軸とし、体系的・組織的な教育の展開、教育・学修の質向上に取り組んだ。

○ ディプロマ・ポリシー

本学部は、以下のディプロマ・ポリシーに基づく能力を身につけ、「大学学則」に基づく授業科目及び単位数の修得等の規定要件を満たした学生に対しては卒業を認定し、学士（看護学）を授与する。

- ・看護の対象となる人々の人権を守り、多様な価値とその人らしさを尊重した態度を身に付け、行動することができる
- ・看護の基礎知識・技術を身に付け、科学的根拠に基づき計画的に健康問題の解決に取り組むことができる
- ・あらゆる健康レベル、ライフステージにある対象の特定の健康課題に対して、自分にできる最善の看護を実践することができる
- ・地域で生活する人々をとりまく環境と支援体制を把握し、保健・医療・福祉チームの一員として多職種と連携・協働し、看護活動に取り組むことができる
- ・多様化する社会や健康ニーズに関心をもち、看護を探究し、看護のプロフェッショナルとして自己研鑽し続けることができる

○ カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げた内容を達成するために、教育課程は、基礎科目、専門基礎科目、専門科目3科目区分から構成し、以下の方針に基づいて編成する。本学部のカリキュラム・ポリシーは以下のとおりと定めた。

- ・人間理解を深め、看護の対象を多様な文化・価値をもった生活者として捉え、人々の尊厳・人権を擁護するケア態度と対人関係形成の基本を身に付ける素地を培うため、基礎科目として、「人間探究」科目群、「言語とコミュニケーション」科目群を配置する。
- ・看護の対象となる人や家族、集団、地域を多面的かつ意図的にアセスメントし、健康問題解決に適した看護技術を選択して、安全かつ効果的に、根拠に基づく計画的な看護を実践する能力を育成するために、基礎科目の「科学的思考の基盤」、専門基礎科目及び

専門科目を配置する。

- ・専門基礎科目は、看護の対象である人間の身体を系統的に理解し、疾病と治療に関する基礎知識及び保健医療福祉システムに関する基礎的な知識を修得するため、「人体の構造と機能」「疾病と治療・回復」「健康支援と社会保障制度」の3つの科目群を設け、科目を配置する。
- ・専門科目は、専門基礎科目の知識・技術を基盤とし、あらゆる発達段階・健康状態・生活の場にある人々を支援するための理論と援助技術を学び、ヒューマンケアリングを体現化する実践力を身につけ、看護の統合的学修を目的として、「基礎看護学」「地域・在宅看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と発展」の8つの科目群を設け、科目を配置する。
- ・看護専門職として地域の特性やサービス提供のしくみを理解し、地域で療養生活する人々に対して基本的な援助ができるとともに、地域包括ケアの様々な活動の場における多職種と連携・協働する力を養うための科目を配置する。
- ・看護職としてのキャリアを発展させていく意義を自覚し、自ら看護職としての能力を高め拡大していくために、将来にわたり継続的に自己研鑽を行うための基礎的能力を養うための看護キャリア形成科目を配置する。
- ・保健師教育課程を履修できる選択科目を配置する。

教育方法

学生一人ひとりの資質及び個別の能力に応じた効果的な教育を実現するために、次の教育方法を導入する。

- ・知識の理解を目的とする教育内容は、アクティブ・ラーニングやシミュレーション教育など、様々な教育方法を取り入れ、知識体系を理論的かつ統合的に学べるようにする。
- ・課題や患者情報の提供などによる、グループワークやシミュレーターをはじめとする教材及び医療器械等を活用した学習環境を整備し、学修者が主体的・能動的に学べる教育方法を実践する。
- ・自ら学ぶ力の醸成や能動的学修を支援するため、学内のネットワーク環境、LMS（learning management system）などのICT環境を提供し、学生個々の学修成果についてルーブリックを用いた形成的評価を行うための仕組みを整備する。
- ・きめ細やかな教育ができるよう、必要に応じて少人数グループで授業を実施する。
- ・あらゆる年齢、あらゆる健康状態にある対象の口腔健康管理に関する全人的な健康支援を「看護の視点」でとらえ、専門的援助ができる能力を育成するために、関連性の高い科目群において、看護と口腔健康管理の有機的連関を図る授業を実施する。

評価方法

公平性と透明性を確保するために、達成すべき基準をシラバスに科目ごとに定め、明示し、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価等から多面的・総合的に評価を行う。

1) 教育環境の整備・充実

- ・看護学部のメインキャンパスである楠葉西学舎は、看護実習室、シミュレーションルーム、コントロールルーム、自習室、図書室、全館 WI-FI 環境を完備し、看護学教育のための最新の学修環境を備えており、施設設備の効率的・効果的な運用に取り組んだ。
- ・教務システム STEP、学修支援システム Teams、パソコン利用に関する各種マニュアルを整備し、オリエンテーション等で学生に周知するとともに、履修相談、シラバス活用や学修成果の可視化システム・アセスメントに関するガイダンスを実施した。
- ・第1学年専門科目の日常生活看護技術論及び療養支援技術論において、シミュレーション演習を行ったほか、学生及び教員対象のシミュレーション教育に関する講演会を実施、シミュレーション教育活動計画立案のためのニーズ調査を行うなど、シミュレーション教育導入を推進した。

2) 臨床実習等

実習を安全かつ適切に行うことができるよう、実習前オリエンテーション、抗体検査及び予防接種、学生保険の加入等を計画的に進め、第1学年看護導入実習を無事に終えることができた。また、実習実施体制の確立を目指し、実習要綱の作成、各学年の実習計画策定、看護技術到達度等について検討を重ね、実習先との連携体制の構築、実習指導体制の強化のため、臨地実習指導者連絡調整会議及び臨地実習指導者セミナーの本格実施に向けて始動した。

3) 国家試験対策

第1期生を対象に、国家試験ガイダンス、外部模試受験、補講講義を行い、国家試験対策自習室の整備、看護国家試験対策 WEB など学習支援ツールの活用、国家試験対策学生スタッフの育成など環境整備に取り組んだ。

3. 学生支援

1) 支援体制・支援環境の整備

- ・学年担任制で指導教授及び助言教員を置き、学生とのコミュニケーションを深めるとともに学修状況や学生生活を把握し、必要なアドバイスや指導を行った。更なる支援充実に目的に2025年度より助言教員を複数指導体制に移行していくこととした。
- ・新入生オリエンテーションにて学生生活全般に関するガイダンスを実施し、修学支援制度、日本学生支援機構奨学金制度が適切に利用できるよう説明会を開催するなど、学生への周知に努めた。
- ・学生生活ハンドブックは、より分かりやすく明記するため、記載内容ごとに所管の委員会等で見直し改善を行った。

- ・消費者トラブル、ストーカー問題や闇バイトなど、学生生活に関するトラブルへの注意喚起として各種セミナーを実施した。
- ・保健室では健康相談に応じ、実習に関する抗体検査及びワクチン接種など学生生活に必要なサポートを行った。
- ・ハラスメント等への対応として、ハラスメント相談員・相談窓口・目安箱について学生に周知を図った。
- ・学生と学部長・学科長との懇談会、クラス交流会を実施した。
- ・学生支援の改善等を図ることを目的に、学生のためのWeb意見箱を設置した。

2) キャリア支援

- ・学生の進路・就職活動の拠点となるキャリア支援室を開室し、就職・進学に関する掲示や資料等の整備を行い、学生の利用促進を図った。
- ・キャリアセミナーとして、第1期生を対象に就職活動準備講座を開催した。今後、実習前マナー講座等も実施する。
- ・効果的なキャリア支援を行うため、学年進行に応じた4年間のキャリア支援計画策定について検討を行った。

4. 学部独自の取り組み

1) 看護学部開設記念講演（2024年6月23日(日)）

テーマ「人生100年時代 医療系大学の役割」（外部講師）

楠葉学舎講堂で開催。本学教職員、学生、実習関連施設等関係者が参加した。

2) 看護の日イベント（2024年5月26日(日)）

楠葉西学舎で、教職員・学生ボランティアによる看護の日イベントを開催し、看護に関する展示、子供向けコーナー、健康測定コーナーなどプログラムを実施した。一般の方の参加は約80名であった。

3) 看護学部FD講演会

・第1回（2025年1月23日(木)）

テーマ「シミュレーション教育による看護実践力の向上 ―自ら学び続ける看護師になるために―」（外部講師） 教職員34名参加

・第2回（2025年3月11日(火)）

テーマ「看護学教員のための最新の口腔ケア総論」（講師：本学医療保健学部口腔保健学科教員）教職員30名参加

4) 看護学部保護者会

・保護者会総会（2024年4月2日(火)入学式終了後）

・教育懇談会（2024年9月15日(日)） 第1学年48組参加

5. 地域連携・実践研究センター

地域連携・実践研究センターでは、毎月開所日を設定し、健康に関する相談、健康教室、地域交流サロンの貸し出しなど、地域交流・地域貢献活動を行っている。

1) 年間利用者数

地域連携・実践研究センター 255名、地域交流サロン 295名
健康教室 111名、出前講座 32名

2) 地域連携・実践研究センター企画講演会（2024年10月26日(土)）

テーマ「フレイル予防で健康長寿を目指す講演と鼎談」（外部講師）

大学祭（楠葉祭）に併せて、楠葉学舎大学院講義室で開催。

6. 学生の受け入れ

○アドミッション・ポリシー

看護職は、患者を中心にその家族、医療チームのメンバーをつなぎ、安全で安心な治療の支援と、あたたかなケアを実現する「要（かなめ）」となる存在である。

本学部の教育目的は、「博愛と公益」という建学の精神に基づき、予測不可能な時代にあっても、ヒューマンケアリングを基盤とし、人々の生命を守り、その人らしい生活の営みを支えるために、科学的根拠に基づいた確かな看護実践力を備え、医療チームの一員として地域の保健・医療・福祉に貢献できる探究心と自己研鑽力を身に付けた人材養成である。したがって、本学部では、当該人材養成に必要な入学生の確保に向け、多様な入試選抜方式を用意し公正かつ厳正な選考を行う。本学部のアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。

【求める人物像】

- ・命を大切に感じ、人をいつくしみ、人の可能性を信じ、理解するという他者との関係性の構築に前向きに取り組むことができる者
- ・周囲に対する協調性や思いやりの心を持ち、相手の個性を尊重し、相手の話に耳を傾けることができる者
- ・保健・医療・福祉分野に関心をもち、看護学に関する学習に意欲的に取り組むことができる者
- ・専門知識修得のために最低限必要な高等学校までの基礎学力を有する者
- ・将来、保健・医療・福祉の現場で看護実践家として、看護の力をもって社会に貢献する意思のある者

【入学までに修得しておいてほしい学習成果と水準】

予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てるために、高校教育で培われた「学力の3要素」（1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度）を大学教育で更なる伸長を図るため、次に掲げる知識・思考・態度などを備え、入学後の学びに主体的に取り組むことができる者が望ましい。

□知識・技能

- ・高等学校の教育課程において、幅広く教科・科目を修得し、論理的に文章を読み解き、自分の考えを論理的に文章として書くことのできる基礎学力
- ・看護の基礎となる生命現象に対する数学、理科(生物・化学)に関する基礎学力

□思考力・判断力・表現力

- ・自然科学の現象について自ら調べ、論理的に考えることができる
- ・他者の意見に耳を傾け、自分の考えも適切に相手に伝えることができる

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・倫理・道徳観を持ち、生命や人の尊厳を大切にする態度
- ・主体的に生徒会活動や特別活動、ボランティア活動などの課外活動に参加し、他者と協調しながら行動しようとする姿勢

【入学者選抜の基本方針】

入学者の選抜方法として、総合型選抜、学校推薦型選抜（指定校制・公募制）、一般選抜（特待生チャレンジ2科目型・3科目型）、一般選抜（後期）、大学入学共通テスト利用選抜（前期・後期）、というさまざまな入学者選抜方式を採用し、総合的に判断し、多様な人材を受け入れることを目指す。

□知識・技術

個別学力検査、調査書、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□思考力・判断力・表現力

個別学力検査、面接、志望理由書、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

□主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

面接、調査書（課外活動）、学習計画・意欲などを確認する書類で評価する。

上記のアドミッション・ポリシーに基づいて、2024年度に合計5回のオープンキャンパスを開催した。合計5回（5月～9月まで）延べ482名が参加した。

開学して間もないが、第1学年学生がボランティアスタッフとして参加し、学部紹介、キャンパスツアー、体験型ミニ授業、最新入試説明、個別相談、食堂ランチ体験などのプログラムを実施した。

（実施場所）楠葉西学舎

第1回	： 5月26日（日）	86名
第2回	： 6月23日（日）	91名
第3回	： 7月28日（日）	79名
第4回	： 8月10日（土）	139名
第5回	： 9月15日（日）	87名

看護学部の認知度を高める大学広報の一環として、本年度で通算3回目となる「大阪歯科大学SDGs AWARDS」（後援／読売新聞大阪本社、読売中高生新聞、Benesse（株）進研アド）を実施し、高校生を対象に懸賞論文を募集し、2025年2月に高校生20名を表彰した。それ以外にも受験雑誌、Web媒体、京阪電車交通広報の掲出等、さまざまな広報を展開した。

また、一般選抜（前期3教科型）の受験生を対象とした入学者選抜成績優秀者特待生制度を設け、優秀な学生の確保に努めた。この制度で特待生に認定された者のうちB種（55万円減免）で7名の学生が入学したことから一定の効果があったのではないかと考える。

2025年度入学者選抜区分別の志願者数は、総合型選抜で54（+35名）、ファミリー特別選抜で1名（±0名）、学校推薦型選抜で121名（+56名）、一般（前期・2教科型、3教科型・全学部日程・後期）で112名（+4名）、大学共通テスト利用（前期・後期）で24名（-1名）となっており合計で312名（+94名）の志願者であった（カッコ内の数字は前年度比）。そのうち306名が受験し、146名が合格し、最終的に第2期では、募集人員である80名（男子8名、女子72名）の入学者を確保することができた。

V. 研究に関すること

1. 科学研究費の獲得に向けた取り組み

2024年度文部科学省科学研究費助成事業への申請及び採択件数の増加促進のための説明会は、集合形式では行わず、全教員に関係資料をメールで配信し、各種問い合わせに随時対応した。

○令和6年度科学研究費助成事業（科研費）（新規＋継続）

基盤研究（B）	5件
基盤研究（C）	48件
若手研究	23件
研究活動スタート支援	2件
合計	78件

科研費交付額	直接経費	9060万円
	間接経費	2718万円
合計		1億1778万円

（※ 基金分・継続課題については交付申請書に記載の額で計算）

2. SDGs（持続可能な開発目標）関連の研究・教育の推進

本学は、楠葉学舎所在の枚方市の取り組みである「枚方市SDGs推進登録制度」に賛同（2022年8月29日付認定、枚方市所在の大学としては初）し、パンフレット『大阪歯科大学SDGs推進に向けて わたしたちにできることから』に掲載されている特色ある研究・教育を2024年度においても推進した。

3. 知的財産関係

本学は、「知的財産取扱規程」において、教職員等の発明及び特許等に関する取扱を規定し、本学における知的財産活動に関する事項について審議及び決定し、職務発明等の取扱に関する審査を適正かつ公正に遂行し、知的財産権の実施及び管理並びに活用について審議するために知的財産委員会と発明検討委員会を設置している。2024年度は、発明届出2件、国内優先権主張出願の要否2件などの審査を行った。

4. 研究不正行為防止、公的研究費の管理について

本学は、研究に対する基本的な考え方として「大阪歯科大学における公正な科学研究の推進について」をホームページに掲載している。

研究不正行為防止に関しては文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文部科学大臣決定）」に基づき、毎年度チェックリストを、歯学部主任教授会及び医療保健学部教授会において確認後、同省に提出している。

公的研究費管理については、文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づき、毎年度チェックリストを、歯学部主任教授会、医療保健学部教授会及び看護学部教授会において確認後、監事の確認を経て同省へ提出している。

啓発活動として「公的研究費の不正使用防止に係る啓発活動（No. 1～No. 4）」を教職員全員に対してメール配信を行い、所属長に所属部署の構成員への周知徹底を依頼した。

公的研究費採択者（分担者含む）を対象に、コンプライアンス研修を兼ねた科研費執行説明会を2024年7月30日に天満橋学舎、8月9日（金）に楠葉学舎で開催した。

2019年度より「人を対象とする医学系研究に係わる教育」として導入した一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）のeラーニングを研究倫理教育にも利用し、科研費申請の条件としている。

大学院生に対しては研究倫理の講義を受講後、APRIN eラーニングを受講することとしている。学部学生の講義においても研究倫理の内容を含む授業を行っている。

また、公的研究費の取扱いに係る事務職員についてもAPRIN eラーニングを受講することとし、関係者全員が受講している。

5. 組換えDNA実験に関する安全管理について

本学は、組換えDNA実験を計画し、実施する際に遵守すべき安全確保に関する基準を示し、実験の安全かつ適切な実施を図ることを目的として「組換えDNA実験安全管理規程」を制定し、組換えDNA実験に関する事項について、実験計画の法律・省令等の適合性等を調査・審議するために組換えDNA実験安全委員会を設置している。2024年度は研究計画3件の審査を行った。

また、実験従事者へ実験開始前に法律・省令及びこの規程を熟知させ、危険度に応じた微生物安全取り扱い技術等の教育訓練を行っている。2024年度は、5月28日に「組換えDNA実験安全講習会」を開催した。

6. 医の倫理委員会について

本学における人を対象とする医学系研究が、世界医師会ヘルシンキ宣言、関連法規及び国の指針に基づいて適正に実施されるよう、医の倫理委員会において人を対象とする歯学・医学・看護学研究実施規則に基づき申請された研究計画の審査判定及び審議等を行っている。2024年度は51件の研究課題について審査を行い、49件の学長承認が与えられた。また、看護学部開設に伴い、医の倫理委員会に看護学研究の研究計画を審査するための看護部会を設置し、2024年度は看護学研究の研究計画19件の審査を行った。

7. 動物実験委員会について

本学は、動物実験等を科学的観点、動物愛護の観点及び環境保全の観点並びに実験等を行う教職員・学生等の安全確保の観点から適正に行うために「動物実験規程」を制定し、研究者から提出された動物実験計画の審査等を行うために動物実験委員会を設置している。2024年度は動物実験計画書100件の審査を行い、88件の学長承認が与えられた。

また、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者に対し、動物実験等の実施並びに実験動物の飼養及び保管を適切に実施するために必要な基礎知識の習得を目的として教育訓練を行っている。2024年度は、毎月、オンライン形式で実施した。

8. 大阪歯科大学学術リポジトリの開設と教育研究業績の公開について

文部科学省が推進する学術情報の公開については、「大阪歯科大学学術リポジトリ」においてその内容の充実に努めている。

毎年度『大阪歯科大学教育研究論文目録』をまとめている。2021年目録まで冊子で作成していたが、2022年目録からは冊子体は作成せず、全体を学内ホームページに掲載するとともに、研究室ごとに本学ホームページに掲載している。

9. 学術研究・社会連携等の進展

2024（令和6）年度の文部科学省・日本学術振興会の科学研究費以外の主な状況は、以下のとおりであった（附属資料にも掲載）。

○令和6年度私立大学等経常費補助金（日本私立学校振興・共済事業団）

（一般補助＋特別補助） 2億8194万3000円

○令和6年度私立大学等研究設備整備費助補助金（私立大学等研究設備等整備費）

（文部科学省）フローサイトメーター一式 696万6000円

○令和5年度「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業」（日本医療研究開発機構）課題名「超高齢社会に対応した歯科口腔医療実現のための医療機器創出・企業育成に係る産業振興拠点の構築」（代表者：中嶋 正博 教授）

○令和6年度「医療機器等における先進的研究開発・開発体制強靱化事業「医療機器等の開発・実用化促進のためのガイドライン策定事業 医療機器開発ガイダンスの作成と改訂」（日本医療研究開発機構）研究開発課題名「SaMDの品質管理システム（SaMD-QMS）確立に必要なソフトウェアライフサイクルプロセスの要求事項に係るガイダンス作成と考え方に関する

研究」(代表者：谷城 博幸 教授)

- 令和5年度「医療・介護・健康データ利活用基盤高度化事業(医療高度化に資するPHRデータ流通基盤構築事業)」(日本医療研究開発機構)研究課題名「医療高度化に資する分散管理型PHRデータ流通基盤に関する研究開発」(研究代表者：石見拓 京都大学教授・PHR普及推進協議会代表理事、研究開発実施期間：令和5年6月～令和6年度末)(分担者：山本 景一 教授)
- 令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)(厚生労働省)研究課題名「体外診断用医薬品及び医療機器の一般的名称の策定・選定に係る環境整備に向けた考究」(代表者：谷城 博幸 教授)
- 東大阪市、東大阪市東歯科医師会、東大阪市西歯科医師会との東大阪市内モノづくり企業による機器開発等に係る包括連携協定(8月19日)
- 第67回春季日本歯周病学会学術大会において 岩崎剣吾准教授 歯周組織再生医学優秀発表賞(第66回秋季大会)受賞(5月24日)
- 第15回 Asian Pacific Society of Periodontology Meeting(アジア太平洋歯周病学会)において 岩崎剣吾准教授 “First Prize” 受賞(10月17日・18日)
- 歯学研究科・歯科麻酔学専攻2年谷口侑里映さん 第72回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会において JADR/GC 学術奨励賞受賞(11月16日・17日)
- 看護学部・雄西智恵美学部長 看護学部第22回(2024年度)SGH看護特別賞受賞(11月30日)
- 大学等における修学の支援に関する法律による令和6事業年度授業料等減免費交付金(日本私立学校振興・共済事業団) 5069万2600円
- 令和6年度臨床研修費等補助金(歯科医師)(厚生労働省) 7441万3000円
- 大阪府医療機関食材料費高騰対策一時支援金(大阪府) 11万2000円
- 大阪府医療機関浸水対策事業費補助金(大阪府) 30万円
- 大阪市医療機関等物価高騰対応支援金(大阪府) 56万円

VI. 国際交流

本学は、従来からグローバル人材の育成に積極的に取り組んでいる。オープンキャンパスにおいては、「大阪歯科大学の学生国際交流力」という小冊子を配布しており、その際に短期海外研修に参加した学生が講演を行っている。2024年4月1日現在、海外17大学と協定を締結している(学生交流を行っているのは11大学)。

- ・本学学部生・大学院生及び協定校を含む海外の学生がオール英語で研究発表を行う「Forum for International Students」を開催し、学生・教職員が自由に聴講することによって、教育研究活動の推進に貢献している。通算第8回目となる2024年度は、7月9日に本学(会場：楠葉学舎)にて開催された。

また、四川大学華西口腔医学院、上海交通大学口腔医学院、オレゴンヘルス&サイエンス大学歯学部、オレゴンヘルス&サイエンス大学(歯学部・看護学部合同)、コロンビア大学歯学部及びキングス・カレッジ・ロンドン歯学部への学生短期海外留学並びに南方医科大学代表团、山西医科大学代表团、上海交通大学口腔医学院代表团、北京大学口

腔医学院代表団の受け入れなど海外の学生及び教職員の派遣・交流が実施された。

- ・在籍留学生の生活相談、日本語ミニレッスンなどを随時行っている。また、現在留学生増加の背景に合わせて、「Handbook for international students（旧外国人留学生の手引き）」の内容を刷新し、「国際交流危機管理マニュアル」と併せて配付し、きめ細かい支援を行った。

Ⅶ. 社会連携・社会貢献

本学は、枚方市、近隣大学、企業等との連携事業を推進するとともに、国内の他の大学や研究機関との交流を促進し、人々の口腔の健康・全身の健康の維持向上に寄与するとの「社会連携・社会貢献の方針」を定め、教育・研究・臨床の成果を適切に社会に還元することをホームページに明示している。

（附属病院、医療イノベーション研究推進機構の取り組みについては、各項目を参照のこと。）

・第30回大阪歯科大学公開講座

本学の恒例事業となっている公開講座は、「大阪歯科大学附属病院における最近の最先端医療」をテーマに、本学の竹信 俊彦・口腔外科学第二講座教授、草野 薫・口腔インプラント学講座教授を講師に、本学天満橋学舎（2024年9月）及び楠葉学舎（2025年2月）で開催し、延べ受講者数449名であり好評を得た。

・枚方市との連携事業への参画

本学と枚方市は、今日まで学公連携を深めてきた。枚方市の審議会・委員会（保健所運営協議会、健康増進計画審議会）へ本学から教員を派遣し、市政運営に協力している。さらに、枚方市所在の5大学との地域連携を図るため設置されている「学園都市ひらかた推進協議会」の下記の事業にも積極的に参画した。また、枚方市民の健康増進や地域医療の充実を目指す「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」についても運営に協力した（大阪歯科大学公開講座（楠葉学舎で開催）は、連携事業）。

〔ひらかた市民大学〕（2024年10月26日）

特色ある5大学の専門的な知識・情報を学べるもので、輪番制で開催された。本学は、楠葉学舎3号館1階大学院講義室において、草野 薫・本学歯学部教授が「インプラント治療最前線！-私も治療できますか？大学病院だからできること-」をテーマに講演を行った。

〔ひらまなカレッジ健康セミナー〕（2025年2月18日）

枚方市立楠葉生涯学習市民センター主催であり、谷本 啓彰・本学歯学部講師が「輝く白い歯 - ホワイトニング - 」をテーマに講演を行った。

[子ども大学探検隊]（2024年10月27日）

毎年、次世代を担う子どもたちに将来への夢を育むきっかけをつくる取り組みとして実施されているものである。本学は、「口の中について学ぼう！歯科大学生体験ツアー」をテーマに、枚方市内の小学生たちが、本学の学生スタッフとともに、歯に関する授業・クイズ、歯医者さんが使う材料で模型作り、歯の診断体験に挑戦した。

VIII. 附置施設の活動

【図書館】

本学図書館は、楠葉学舎に本館、天満橋学舎、牧野学舎に分室を置き、2024年4月からは楠葉分室（看護学部）を開室し、更に利用サービスの充実を図った。また、2024年8月より、図書館システムをリプレイス（システムのクラウド化、図書館ホームページリニューアル）している。そのほか教育研究活動及び学生の自学自習のために必要な図書、学術雑誌、電子媒体を備えた。

<2024年度>

・蔵書冊数	142,969冊
・年間受入資料冊数	2,537冊
・年間払出資料冊数	834冊
・雑誌所蔵種類数（冊子体）	2,202種類
・電子ジャーナル（購入のみ）	6,144種類

楠葉学舎本館、天満橋分室において、学生・大学院生等の利便性を考え、試験期等の期間を定めて休日開館を行った。楠葉分室においては、試験期間の平日のみ、夜間開館を行った。

学術情報検索データベースについては、医学中央雑誌 Web 版等の他に、Journal Citation Reports（JCR）、国立国会図書館デジタルコレクション等の利用が可能である。

文部科学省が推進する学術情報の公開について、本学ホームページに「大阪歯科大学学術リポジトリ」を立ち上げ、学位論文内容要旨及び審査結果の要旨は学位授与後3ヶ月以内に、学位論文全文は学位授与後1年以内に掲載した。

施設・設備については、全館における毎朝の換気、アルコール消毒液、空気清浄機の設置を継続実施した。

その他、日本看護図書館協会に入会（2024年4月）。日本医学図書館協会・近畿地区・評議員として、対外的な協会運営に参画した。

【医療イノベーション研究推進機構（TRIMI）】

2021年11月に、「研究実験センター」「先進医療研究センター」「事業化研究推進センター」の3センターを擁する「医療イノベーション研究推進機構（Translational Research Institute for Medical Innovation:（TRIMI））」が発足した。2022年10月には、「事業化研究推進センター」に2部門（「データサイエンス部門」「地域医療等連携部門」）を新設し、多様な研究推進への機能強化を図った。

2024年度は、研究実験センターに教育研究用機器備品として、クリオスタット、フローサイトメーター、細胞計測装置等を新たに導入し、初心者向けに機器の利用説明会や動物実験実技講習会を行うことにより、教員・大学院生の研究推進に寄与した。

事業化研究推進センターでは、企業や学外の研究機関等に対して、製品化の開発支援や医療機器等の開発支援を行った。また、2022年度に三条市立大学と締結した「歯科医療関連技術の研究開発及び実用化に係る包括連携に関する協定」に基づき、開発会議を定期開催し、協同事案の検討を行った。さらに、2023年度に立命館大学と締結した「学術交流協定」に基づき結成した「口腔・リハビリテーション・栄養コンソーシアム」では、幹事会や企業進捗報告会を行った。加えて、2024年8月19日に本学と東大阪市、一般社団法人東大阪市東歯科医師会、一般社団法人東大阪市西歯科医師会が「包括的連携に関する協定書」を締結し、本学において協定式を執り行った。

TRIMI各センターでの講演会・講習会等の開催状況は、次のとおりである。

[研究実験センター]

・2024年度TRIMI研究実験センター講演会

2025年1月24日 演題「実用化を目指した歯科材料・器械の開発研究
うまかったこと、うまくいきそうなこと、うまくいってほしいこと」

講師：橋本 典也・本学歯科理工学講座教授

[先進医療研究センター]

・先進医療研究セミナーの開催

第7回セミナー（オンデマンド開催）

2024年4月22日 演題：「初めてのヒトiPS細胞培養 フィーダーフリー・
シングルセル継代培養のコツ」

講師：タカラバイオ株式会社より動画提供

第8回セミナー（オンデマンド開催）

2024年12月2日 演題：「抗体実験の基礎 ～ウェスタンブロッティング
(WB)、免疫蛍光染色 (IF) を中心に～」

講師：阿部 晋也氏（セルシグナリングテクノロジージャパン（株））

[事業化研究推進センター]

・データサイエンス部門講習会

第2回講習会

2024年5月31日 演題：「生成系AIでカルテデータを生成する～合成患者
データが開く新しい臨床研究の未来～」

講師：山本 景一・本学事業化研究推進センター教授

第3回講習会

2024年9月30日 演題：「医療・健康データベース研究の未来 ～AIとリ
アルワールドデータの活用～」

講師：山本 景一・本学事業化研究推進センター教授

・企業向け「第3回医療機器開発講習会」

2024年10月4日

講師：谷城 博幸・本学事業化研究推進センター教授 ほか

- ・企業向け公開講座「医療機器薬事開発講座 2024 -医療機器規制の基礎と実践 2-」
2024年7月～12月（全6回）
講師：谷城 博幸・本学事業化研究推進センター教授 ほか
- ・企業向け公開講座「医療機器薬事開発講座 2024 -医療機器規制応用ゼミ-」
2024年4月～6月、2025年1月～3月（全6回）
講師：谷城 博幸・本学事業化研究推進センター教授 ほか

【教育情報センター】

本学全体におけるネットワーク機器の更新やソフトウェア並びにファームウェアのバージョンアップといった既存インフラの維持及び運用管理を行った。

ODUnet（大学系並びに病院系ネットワーク）の運用管理のほか、学内ホームページにてセキュリティ情報を発信し、利用者への注意を喚起した。

私立大学情報教育協会の会員校として、本学教員が委員会運営に参画するとともに、協会の調査研究事業等に参加することにより日進月歩で変化する情報教育の状況を把握し、教育の質の向上に資する情報提供に努めた。

2024年度は、以下のインフラ導入、各種ソフトウェア、ネットワーク機器について更新等を行った。

- ・マイクロソフト School Agreement 契約の更新（契約台数 837 台）
- ・ウイルス対策ソフトのライセンス契約更新（トレンドマイクロ社 Apex One：契約件数 1,236 件）
- ・楠葉学舎 1 号館講義室への Wi-Fi 設備購入
- ・NPS サーバー構築（楠葉学舎、牧野学舎における BYOD 実現のためのインフラ）
- ・楠葉学舎スイッチ 6 台の更新
- ・天満橋学舎病院系スイッチ 10 台の更新
- ・100 周年記念館スイッチ 3 台の更新
- ・メールアカウント及びパスワードの漏洩検知システム（SPC Leak Detection）の導入
- ・ファイヤウォール 3 台のバージョンアップ
- ・学術認証フェデレーション（学認）認証サーバーのバージョンアップ
- ・看護学部ネットワークの保守運用を見直すことによる将来的な運用コスト削減
- ・ODUnet の運用管理

〔大学系情報ネットワーク〕

楠葉（楠葉西学舎を含む）・牧野・天満橋（創立 100 周年記念館を含む）の各学舎に敷設されたネットワークインフラの稼働状況を監視し、障害発生時の迅速な対応に備えた。

〔病院系情報ネットワーク〕

病院情報システムの運用サポートの他、システムサーバの稼働状況のチェック、関連機器の目視巡回などの業務を行った。

IX. 教員力の向上

1. 教員の資質向上への取り組み

教員の資質向上への取り組みとしてファカルティ・ディベロップメント（FD）セミナーを下記の内容で外部講師を招聘するなどして合計 5 回開催した。2024 年度からは本

会場である100周年記念館に行くことができない教員のためにサテライト会場を楠葉学舎、牧野学舎、楠葉西学舎に設置してオンライン中継を行った。

<第1回>

演 題：歯学系C B T問題作成について（歯学部、医療保健学部教員対象）

日 程：2024年 6月21日（金） 17：00～18：30

6月22日（土） 8：00～16：30 ※対象者のみ

会 場：創立100周年記念館4階大講義室

講 師：鶴見大学 教授 小川 匠 先生

出席者：6月21日（金） 134名（中継なし）※看護学部は含めず

6月22日（土） 31名 ※対象者のみ

【講演内容】歯学系C B T問題作成について

本学の採用例と不採用例を用いながら、C B Tの作問ルールや要点、採用される問題の特徴等について講演が行われた。

<第2回>

演 題：大学におけるハラスメントの傾向と予防

—加害者にも被害者にもならないために—

日 程：2024年9月5日（木） 17：00～18：00

会 場：創立100周年記念館4階大講義室

講 師：大阪公立大学大学院 都市経営研究科 教授 服部 俊子 先生

出席者：177名

（天満橋学舎115名、楠葉学舎34名、牧野学舎12名、楠葉西学舎16名）

【講演内容】大学で発生しているハラスメントについて

大学内でのハラスメントの種別について医療系大学特有の傾向があることや、職階や環境、人間関係など様々な要因がハラスメントを引き起こす要因であること、当事者にならないための心得、事象が起きた際の組織の対応等について講演が行われた。

<第3回>

演 題：学生に対する効果的な授業方法について

日 程：2024年10月8日（火） 17：00～18：30

会 場：創立100周年記念館4階大講義室

講 師：佛教大学 教育学部幼児教育学科 教授 山内 乾史 先生

出席者：178名

（天満橋学舎108名、楠葉学舎33名、牧野学舎14名、楠葉西学舎23名）

【講演内容】学生教育の効果的な方法について

昨今課題として挙げられている「入学時の学力」と「大学教育を受けるための学力」の差を解消するためにはどのようにすればよいか、大学の継続的・教育的努力や高大接続の重要性について講演が行われた。また、大学生に求められている非認知能力を大学の講義で育むための方法について、実践例を交えて講演が行われた。

<第4回>

演 題：学修を導く評価を目指して ―ディプロマポリシーから国家試験対策まで―

日 程：2025年1月21日（火）17:00～18:30

会 場：創立100周年記念館4階大講義室

講 師：兵庫医科大学 学長 鈴木 敬一郎 先生

出席者：163名

（天満橋学舎100名、楠葉学舎27名、牧野学舎15名、楠葉西学舎21名）

【講演内容】デジタルネイティブ世代、コロナ禍による学生の学修環境の変化を受け、入学生の学力の低下が懸念される中で、学生を国家試験に合格させるためにはどのように指導していくべきか。伴走型学修支援へと転換してきた兵庫医科大学の改革実践例をもとに、医学系大学の責務と具体的な学習指導方法について講演が行われた。

<第5回>

演 題：科学研究費の獲得をめざして

日 程：2025年3月4日（火）17:00～18:30

会 場：創立100周年記念館4階大講義室

講 師：大阪歯科大学 歯科放射線学講座 主任教授 有地 淑子 先生

出席者：156名

（天満橋学舎98名、楠葉学舎24名、牧野学舎13名、楠葉西学舎21名）

【講演内容】科学研究費の基本的な情報から、研究費を獲得するための申請書の書き方について各評点基準になる項目に沿って具体的なポイントを解説。また、2025年度の新規採択から義務化される即時OAについても講演が行われた。

2. 教員組織について

教員組織の編制方針」に基づいて、教育、研究、臨床にそれぞれ活躍できる体制の充実に努めた。2024年5月1日現在の法人、歯学部、医療保健学部、看護学部の専任教員数は、222名であり、十分な陣容を堅持している。

3. 教員評価について

「大阪歯科大学教員評価の実施に関する規程」に基づき、①教育活動、②研究活動、③臨床活動、④学内、社会貢献の4つの領域において、教員個々の到達目標を明確にし、役割基準評価及び卓越領域評価を実施した。この結果は、教育実践で顕著な成果をあげた教員の表彰（グッド・ティーチャー賞）や、任期制教員の再任用審査に活用している。

X. 附属病院の取り組み

本学附属病院では、患者の方々へ懇切丁寧な医療を提供して地域社会への貢献を図るとともに、臨床実習、臨床研修を中心とした歯科医学の教育研究を充実させることを目的として、日々の業務に取り組んでいる。そのために「病院理念」においては、「患者さまの病に共感し、あたたかい医療を提供する」ことを掲げ、さらに安全・安心な医療に努め、良

質で高度な先進的医療を提供し、口腔保健の向上に努め、健康増進と長寿に貢献し、人権を尊重し、公正な医療を行い、さらに人間性豊かな、優れた医療人を育成することを基本方針として示し、これらの理念と基本方針を踏まえて２０２４年度も附属病院に与えられた使命を全うしてきた。２０２４年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症及びそれに伴う社会情勢に対応し感染対策を徹底した結果、院内クラスターを発生させることもなく、年間を通して附属病院としての機能を維持し、地域医療や臨床教育等に係る社会的貢献に寄与してきた。

１．附属病院組織改革委員会の取り組み

２０１６年４月より理事会のもとに法人関係委員会である附属病院組織改革委員会（以下、「改革委員会」）が設置され、患者数増加や病院収支の改善を目途として取り組みを行ってきた。

改革委員会では毎月の来院患者数目標達成状況や医療収入等の病院統計に係るさまざまな資料が提示され、その内容を精査してきた。また、その結果は附属病院の全診療科長が出席する病院運営委員会において、病院長による提言等を通して周知され、経営改善のための重要な指標として示されてきた。すなわち、改革委員会での議論が最終的に附属病院にフィードバックされ、患者数増加や収支改善に寄与してきたものである。

従前の改革委員会では（１）患者数の増加、（２）診療時間の延長、（３）「診療分野教員」の増員、（４）自費診療の増加、（５）訪問・在宅診療への積極的参入、（６）新診療部門の開設等の喫緊の課題が活発に議論され、速やかな実施に向けた取り組みが行われてきたが、さらに２０２０年度以降は収支の改善に重点を置き、人件費や医療経費を精査した上で、診療科毎の収支状況の評価を積極的に進めた。なお、医員個人の診療収入の評価は、昇任、任期更新の評価基準になっているため、診療意欲向上にもなり附属病院の黒字化実現への一助となっている。

また、人事的には２０１９年１０月から臨床系講座の主任教授を科長とせず、各診療科の教授以外で診療能力が高く評価される人材を科長及び診療主任に据えるという大幅な改革を継続しており、その結果、前年度に続き、次項に示す医療収入と患者数を確保した。

２．２０２４年度患者数・医療収入等

２０２４年度の開院日数は２４２日（土曜日診療含め２９０日）で、外来患者数は２５５，６０５人（昨年度２５９，８７５人）、１日平均患者数は１，０３２（昨年度１，０５２人）となった。

なお、矯正歯科と小児歯科で行っている土曜日診療については、２０２４年度の累計患者数は１０，２４６人（昨年度１０，３８３人）であった。

医療収入についてみると累計で２８億５３６０万９５１６円となり、これは前年度収入（２９億３６３３万１１２０円）を下回る結果となった。

３．病院情報システム（電子カルテ）について

２０２２年度に病院情報システム更新があったが、２０２４年度中に更新による大きなトラブルは無く、各種要望に対応した。近年ランサムウェア攻撃によるシステム障害報道

がある中で、各種委員会での職員への注意喚起、病院システムのセキュリティの見直しを行った。また、次期病院情報システム計画検討に関する作業部会が発足しネットワーク、セキュリティ、災害対策、システム更新等について協議する。

4. 歯科医師の派遣、訪問歯科診療

社会福祉法人阪神福祉事業団 阪神福祉センター診療所へ医員派遣を行い、地域医療の体制確保に寄与することができた。

加えて当院では従前より国家公務員共済組合大手前病院（大阪市中区）、及び関西電力病院（大阪市福島区）への歯科訪問診療を実施しており、入院患者の周術期口腔機能管理等の医療を提供してきた。

また訪問診療ではないが、口腔リハビリテーション科の協力のもと、大阪府下の介護老人保健施設入所者を当院外来で受入診療する取組を展開した。2024年度は29名を受入、年間約43万円の病院収入増加となった。

5. 歯科医師臨床研修

2024年度の研修修了者は単独型と複合型を併せて94名であり、研修歯科医を受け入れた協力型（Ⅰ）臨床研修施設は47施設であった。下表に2019年度から2024年度までの当院の研修歯科医受入数の推移を示す。なお、2024年度に本事業に対して交付された臨床研修費等補助金は7441万3000円で前年度に比べ112万2000円の増額となった。なお、補助金増額の主な理由は、研修歯科医が前年度に比べ2名の増員があったためである。

研修歯科医受入数（人）

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
単独型	16	18	17	14	18	15
複合型	83	87	89	62	74	79
計	99	105	106	76	92	94

6. 健康セミナーについて

当院では患者だけではなく一般市民の参加も念頭に置いた健康セミナーを2017年8月から開催しており、多くの参加者から好評をいただいた。

2024年度は、口腔リハビリテーション科、口腔治療学講座、小児歯科学講座、高齢者歯科学講座の協力を得て、4回開催した。

7. 病診連携講演会

病診連携講演会は、2025年3月15日に開催し、志水 秀郎 主任教授（内科学講座）を講師として27施設31名の参加があった。

また、医療機関からの患者紹介については、2024年度も例年同様に約2,900の医療機関から、紹介された新患者数は13,572人（前年比104%）、初診患者の紹介率は約70%に達している。このように多くの患者を紹介いただいていることを重視し、次年度以降、地域の医療機関との連携を確保するためにも本事業の実施を念頭に置いている。

また、2024年に7人以上の紹介をいただいた454医療機関を評価し、謝意を表する趣旨で「医療連携施設認定証」を交付した。

8. 地域医療連携

地域歯科医療の中核として、2024年度も引き続き地域の歯科診療所等の先生方からのCT、MRI、歯科用コーンビームCT等の画像診断及び病理組織検査を積極的に受け入れ、近隣医療機関の支援に寄与してきた。特に関西医科大学天満橋総合クリニックからのMRI検査依頼は高額な検査故に2024年度は若干の件数減があったが、年間1025万円以上の収入を得ていることも鑑み、継続して連携体制を維持していくこととしている。

9. 院内感染対策講習会、医療安全講習会、医薬品安全管理講習会、医療機器安全管理講習会

2024年度は下記の日程で開催し、多数の教職員の受講により当院の医療安全と院内感染対策の一助としたが、新型コロナウイルス感染症対策として、ZOOM等のネット配信、オンデマンド講習を実施するなど、講習会場の密を避けるため講習方法を工夫し、感染対策に万全を期してきた。

・院内感染対策講習会（カッコ内は参加者数、以下同）

- 2024年4月1日「院内感染対策①」（102名）「院内感染対策②」（96名）
- 4月9日「スタンダードプリコーションと個人防護具（PPE）について」（160名）
- 4月23日「アフターコロナを見据えての感染対策
～サイレント・パンデミックを含めて～」（141名）
- 9月3日「POSTコロナのインフルエンザ対策」
「インフルエンザワクチンの接種スケジュール」（130名）

・医療安全講習会

- 2024年4月2日「診療用放射線安全利用研修」（92名）
- 4月3日「接遇研修」（93名）
- 4月3日「薬物に対する正しい知識」（93名）
- 4月3日「医療安全講習①（概論）」（96名）
「医療安全講習②（救急蘇生）」（96名）
- 4月17日「中央手術室オリエンテーション」（64名）
- 6月13日「患者とのコミュニケーションを円滑にするコンフリクト・
マネジメントのススメ」（186名）
- 7月8日「当院のインシデントアクシデントについて」（122名）
- 2025年2月10日～3月4日「診療用放射線安全利用のための研修」
オンライン（321名）
- 3月27日「2024年度 患者アンケートの結果集計」（69名）

・医薬品安全管理講習会

2024年 4月 1日 「医療安全講習（医薬品①）」（97名）

「医療安全講習（医薬品②）」（97名）

9月 9日 「周術期に注意が必要な薬剤 続編」（118名）

2025年 1月 8日～23日 「周術期に注意が必要な薬剤 続編」

オンライン（231名）

1月29日～2月13日 「周術期に注意が必要な薬剤 続編」

オンライン（18名）

・医療機器安全管理講習会

2024年 4月2日 「医療安全講習（医療機器①）」（97名）

「医療安全講習（医療機器②）」（96名）

2025年1月8日～23日 「デンタルチェアの始業点検」 オンライン（331名）

1月29日～2月13日 「デンタルチェアの始業点検」 オンライン（22名）

・医療ガスに係る安全管理のための職員研修

2024年 7月18日 「医療ガスの安全管理について

—医療ガスのヒヤリ・ハット事例と対策—」（121名）

XI. 施設・設備（教育研究等環境）の整備

本学では、「教育研究環境の整備の方針」を制定し、その中で「楠葉・牧野・天満橋各学舎の施設・設備を可能な限り同水準に整備するよう努める。」としている。2024年度の主な施設・設備の整備は、以下のとおり完了した。

・[楠葉キャンパス]

○熱源設備更新工事（4、5号館 5年計画の初年度）

○3号館空調用ガス吸収式冷温水発生機更新工事

○高圧ケーブル改修工事（3年計画の最終年度）

・[牧野キャンパス]

○大阪府枚方・高槻線の拡幅工事に伴う植栽伐採・処分工事

・[天満橋キャンパス]【附属病院】

○医療ガス設備更新工事

○本館CVCF（低電圧低周波供給装置）更新工事

○本館中央監視盤室防災システム更新工事（3年計画の2年目）

XII. 法人・大学の管理運営

本学は、前年度に引き続き、限られた収入の中から教育・研究・臨床・社会貢献等の各活動の活性化に努めるとともに、人材育成、施設設備の整備、業務改善を進めた。

- ・大学基準協会の大学評価（機関別認証評価）、歯学教育評価（分野別評価）の結果を踏まえた大学全体、学部等のレベルで自己点検・評価活動を実施するとともに、ガバナンス・コードの点検を実施し、その遵守の徹底を図った。
- ・令和7年4月1日施行の改正私立学校法に対応すべく、本法人寄附行為の変更申請の結果、無事認可を受けた。
- ・教職員の資質向上を図るため、SDセミナー（FD・SD共同セミナー）を下記のとおり開催した。
 - 2024年9月5日「大学におけるハラスメントの傾向と予防ー加害者にも被害者にもならないためにー」
講師：服部俊子氏（大阪公立大学大学院都市経営研究科教授）
（オンデマンド配信：9月11日～9月30日）
 - 2025年1月6日 新年互礼会
（教職員及び役員を対象）
理事長・学長による本学の目指す重点計画（事業計画、中期計画の内容を含む）についての講演
- ・教職員に対する人権意識向上の一環として、人権啓発講演会を、2024年9月30日に「マイクロアグレッションとは何か」をテーマに、外部講師（朴 利明氏：アジア・太平洋人権情報センター研究員）を招き対面で開催した（オンデマンド配信：10月16日～11月15日）。
 - 10月上旬から11月中旬にかけて「人権標語」の学内募集を行い、最優秀賞1点、優秀賞1点、佳作1点を選考し、受賞作品とその受賞者氏名を学内ホームページに掲載した。
- ・教職員の省エネルギーへの意識を高めるため、クールビズ、ウォームビズ、省エネの日（節電、節水）等啓発活動を行い、各学舎の年間エネルギー使用量、使用料金をグラフ化し、その削減と経費節減の実績の向上に努めた。

[附属資料]

1. 2024 年度学生数 (2024 年 5 月 1 日現在) () は女子

歯学部	第 1 学年	1 3 9	(7 7)	歯学研究科	第 1 学年	4 3	(1 8)
	第 2 学年	1 2 4	(6 6)		第 2 学年	3 9	(1 8)
	第 3 学年	1 2 6	(6 7)		第 3 学年	3 6	(1 6)
	第 4 学年	1 4 6	(5 9)		第 4 学年	4 7	(1 8)
	第 5 学年	1 1 4	(5 6)			1 6 5	(7 0)
	第 6 学年	1 2 9	(7 5)				
		7 7 8	(4 0 0)				

医療保健学部	第 1 学年	口腔保健学科	8 1	(8 1)	口腔工学科	1 8	(1 0)
	第 2 学年	口腔保健学科	7 9	(7 9)	口腔工学科	2 6	(1 6)
	第 3 学年	口腔保健学科	6 6	(6 6)	口腔工学科	2 4	(1 3)
	第 4 学年	口腔保健学科	6 4	(6 4)	口腔工学科	2 4	(1 1)
			2 9 0	(2 9 0)		9 2	(5 0)

医療保健学研究科

修士課程	第 1 学年	8	(5)	博士課程 (後期)	第 1 学年	3	(2)
	第 2 学年	7	(6)		第 2 学年	3	(3)
		1 5	(1 1)		第 3 学年	1 7	(1 6)
						2 3	(2 1)

看護学部 第 1 学年 1 0 0 (9 2)

2. 国家試験の結果

1) 第 118 回歯科医師国家試験の結果

2025 年 3 月 14 日合格発表

	(総 数)			(新 卒)			(既 卒)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	173	126	72. 8	60	60	100. 0	113	66	58. 4
全国	3, 039	2, 136	70. 3	1, 973	1, 657	84. 0	1, 066	479	44. 9

2) 第 34 回歯科衛生士国家試験の結果

2025 年 3 月 26 日合格発表

	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	64	64	100. 0
全国	8, 026	7, 300	91. 0

3) 令和6年度歯科技工士国家試験の結果

2025年3月26日合格発表

	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	18	18	100.0
全国	733	684	93.3

4) 第37回社会福祉士国家試験の結果

2025年3月4日合格発表

	(総 数)			(新 卒)			(既 卒)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	13	8	61.5	8	8	100.0	5	0	0.0
全国	27,616	15,561	56.3	-	-	-	-	-	-

3. 2025年度入学試験状況

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数※	入学者数
歯学部	学校推薦型	113	59	
	一般前期	202		
	チョイス2前期	167	137	
	チョイス1前期	167		
	一般全学部日程	61	14	
	一般後期	70		
	チョイス2後期	62	41	128
	チョイス1後期	62		
	共通テスト利用前期	198	28	
	プラス1前期	92	20	
	共通テスト利用後期	44	14	
	プラス1後期	19	7	
	外国人留学生(1年次)	8	0	
	転入・編入(2年次)	2	1	1
	外国人留学生(2年次)	0	0	
医療保健学部 口腔保健学科	総合型(学修意欲評価型)	41	41	
	学校推薦型	23	23	
	一般前期	21	18	
	一般全学部日程	2	1	
	一般後期	1	1	71
	共通テスト利用前期	9	9	
	共通テスト利用後期	1	1	
	社会人特別選抜	0	0	
	外国人留学生(1年次)	1	0	
	転入・編入(2年次)	0	0	0

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数※	入学者数
医療保健学部	総合型	学修意欲評価型	5	5
		専門・総合学科特色型	0	0
		ダイバーシティ型	2	2
		学校推薦型	1 2	1 2
	口腔工学科	一般前期	2	2
		一般全学部日程	0	0
		一般後期	2	1
		共通テスト利用前期	3	2
		共通テスト利用後期	1	1
		社会人特別選抜	0	0
		外国人留学生（1年次）	7	7
		特別入学者選抜	2	2
		転入・編入（2年次）	0	0
				2 9
看護学部		総合型(学修意欲評価型)	5 4	1 0
		学校推薦型	1 2 1	5 7
		一般前期	8 8	5 2
		一般全学部日程	1 0	2
		一般後期	1 4	8
		共通テスト利用前期	2 3	1 6
		共通テスト利用後期	1	1
		ファミリー特別選抜	1	0
		社会人特別選抜	0	0
				8 0
歯学研究科		一般一次	1 5	1 2
		一般二次	1 1	1 1
		一般三次	0	0
		社会人特別	1	1
		社会人特別二次	0	0
		外国人留学生特別選抜	1 0	1 0
医療保健学研究科	修士課程	第1回募集	0	0
		第2回募集	3	3
		第3回募集	2	2
		第4回募集	0	0
	博士課程 （後期）	第1回募集	1	1
		第2回募集	0	0
		第3回募集	3	3
		第4回募集	0	0
				4
				4

※補欠合格者含む

4. 2023 年度会計実査 2024 年 4 月 2 日（火）
5. 大学看護学部入学式 2024 年 4 月 2 日（火）午前 10 時（於：楠葉学舎）
6. 大学歯学部・大学院歯学研究科入学式 2024 年 4 月 5 日（金）午前 10 時（於：楠葉学舎）
7. 大学医療保健学部・大学院医療保健学研究科入学式
2024 年 4 月 5 日（金）午後 2 時（於：楠葉学舎）
8. 新入生研修／ガイダンス
- ・ 歯学部 2024 年 4 月 8 日（月）、9 日（火）（於：楠葉学舎）
 - ・ 医療保健学部 2024 年 4 月 8 日（月）～ 11 日（木）（於：牧野学舎）
 - ・ 看護学部 2024 年 4 月 2 日（火）～5 日（金）（於：楠葉西学舎）
9. 2023 年度監事監査 2024 年 5 月 13 日（月）、14 日（火）（於：楠葉学舎）

10. オープンキャンパス

1) 3 学部合同オープンキャンパス 参加者合計 340 名（高校生のみ）

日程	参加状況※				実施場所
	歯学部	医療保健学部		看護学部	
		口腔保健学科	口腔工学科		
7月28日	172名	74名	12名	79名	楠葉キャンパス

※その他、学科不詳 3 名参加

2) 歯学部オープンキャンパス

日程	参加状況	実施場所
8 月 25 日	122 名	天満橋学舎

3) 医療保健学部オープンキャンパス

回	日程	参加状況		実施場所
		口腔保健科	口腔工学科	
第 1 回	3 月 24 日	31 名	2 名	牧野キャンパス
第 2 回	5 月 26 日	41 名	9 名	牧野キャンパス
第 3 回	6 月 16 日	49 名	5 名	牧野キャンパス
第 4 回	(3 学部合同オープンキャンパスのとおり)			
第 5 回※	8 月 8 日		21 名	天満橋キャンパス
第 6 回	8 月 18 日	81 名	19 名	牧野キャンパス
第 7 回	9 月 8 日	25 名	13 名	牧野キャンパス

※口腔工学科のみ対象

4) 看護学部オープンキャンパス

回	日程	参加状況	実施場所
第1回	5月26日	86名	楠葉西学舎
第2回	6月23日	91名	楠葉西学舎
第3回	(3学部合同オープンキャンパスのとおり)		
第4回	8月10日	139名	楠葉西学舎
第5回	9月15日	87名	楠葉西学舎

11. 歯学部父兄会・共済会総会及び個人懇談会（於：楠葉学舎）
2024年6月29日（土）午後1時 総会出席者数 89名、個別懇談会出席者数 246名
12. 第56回全日本歯科学学生総合体育大会 2024年7月31日（水）～8月13日（火）
13. 2024年度FDセミナー（本文参照）
14. 2024年度SDセミナー（本文参照）
15. 第30回大阪歯科大学公開講座
 - ・メインテーマ
「大阪歯科大学附属病院における最近の最先端医療」
 - ・日程 天満橋講座 2024年9月7日（土）、14日（土）午前10時～正午
受講者延べ179名（於：100周年記念館）
枚方講座 2025年2月8日（土）、15日（土）午後1～3時
受講者延べ270名（於：楠葉学舎）
16. 2024年度人権講演会
2024年9月30日（月）（於：100周年記念館）（10月16日～11月15日 Web 配信）
テーマ「マイクロアグレッションとは何か
－悪意のない言動に隠された「差別」に気づくために－」
講師：アジア・太平洋人権情報センター 研究員 朴 利明 先生
17. 大阪歯科大学父兄会個人懇談会（第1～5学年）（於：楠葉学舎講堂）
2024年10月6日（日） 246名出席
18. 2024年度楠葉祭
2024年10月26日（土）、27日（日）（於：楠葉学舎）
19. 2024年度解剖体慰霊祭 2024年11月8日（金）午後1時（於：楠葉学舎講堂）

20. 実験動物慰霊祭

2024 年 11 月 20 日（水）～27 日（水）（於：楠葉学舎 3 号館 1 階ゼミナール室）

- | | | |
|--------------------|-------|---------------------|
| 21. 2024 年度防災・防火訓練 | 牧野学舎 | 2024 年 12 月 4 日 (水) |
| | 天満橋学舎 | 2025 年 2 月 21 日 (金) |

※楠葉学舎では「教養型防災訓練」を実施（2024年11～12月）

※天満橋学舎では「教養型防災訓練」も合わせて実施（2024年9月）

22. 共用試驗 2024 齒學系診療參加型臨床實習後客觀的臨床能力試驗

- ・臨床実地試験 2024 年 11 月 19 日（火）（医療系大学間共用試験実施評価機構派遣監督者視察日）
- ・一斉技能試験 2024 年 12 月 14 日（土）

23. 2025 年新年互礼会 2025 年 1 月 6 日（月）（於：楠葉学舎）

24. 2024 年度共用試験菌学系 CBT 並びに OSCE

- ・ OSCE 2025 年 1 月 26 日（日）午前 9 時（於：天満橋学舎）
- ・ CBT 2025 年 2 月 6 日（木）午前 9 時 30 分（於：楠葉学舎）

25. 第3回「大阪歯科大学 SDGs AWARDS」あなたとわたしの「つながりごはん」
エッセーコンテスト表彰式 2025年2月16日（日）（於：楠葉西学舎）

26. 2024 年度大学歯学部卒業式並びに大学院歯学研究科学位認証式
2025 年 3 月 7 日（金）午前 10 時（於：植葉学舎）

27. 2024 年度大学医療保健学部卒業式並びに大学院医療保健学研究科学位認証式
2025 年 3 月 13 日（木）午前 10 時（於：楠葉学舎）

28. 2024 年度齒科医師臨床研修修了証授与式 2025 年 3 月 25 日（火）（於：天満橋学舎）

- ## 29. 特待生の採用

- ・ 歯学部 第2学年から第6学年の各3名、計15名に対し授業料各100万円免除
 - ・ 医療保健学部
 - 口腔保健学科 第1学年1名、第2学年2名、第3学年1名、
 - 口腔工学科 第4学年1名
- 計5名の授業料等合計441万円免除

30. 大阪歯科大学歯学部奨学金奨学生選考 6名の学生に対して総額4,400,000円の奨学金を貸与

31. 2025 年度研修歯科医の募集定員 プログラム S（単独型）20 名、プログラム C（複合型）120 名

32. 学位授与

1) 博士（歯学）

学位記番号 甲第 1011 号～1055 号 4 5 名に学位記授与

学位記番号 乙第 1668 号～1674 号 7 名に学位記授与

2) 博士（口腔科学）

学位記番号 甲第 9 号～ 12 号 4 名に学位記授与

3) 修士（口腔科学）

学位記番号 第 45 号～49 号 5 名に学位記授与

33. AMED 令和 5 年度「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業」に採択（6 月 19 日）

34. 東大阪市、東大阪市東歯科医師会及び東大阪市西歯科医師会と「東大阪市内モノづくり企業による機器開発等に係る包括連携協定」を締結（8 月 19 日）

35. 岩崎剣吾准教授が第 67 回春季日本歯周病学会学術大会において、歯周組織再生医学優秀発表賞（第 66 回秋季大会）を受賞（5 月 24 日）

36. 岩崎剣吾准教授が第 15 回 Asian Pacific Society of Periodontology Meeting（アジア太平洋歯周病学会）において、“First Prize”を受賞（10 月 17 日・18 日）

37. 歯学研究科・歯科麻酔学専攻 2 年の谷口侑里映さんが第 72 回国際歯科研究学会日本部会（JADR）総会・学術大会において、JADR/GC 学術奨励賞を受賞（11 月 16 日・17 日）

38. 雄西智恵美看護学部長が第 22 回（2024 年度）SGH 看護特別賞を受賞（11 月 30 日）

39. 2024 年度法人理事会・法人評議員会・歯学部主任教授会・歯学部教授会・医療保健学部教授会・看護学部教授会・歯学研究科会議・医療保健学研究科会議

1) 法人理事会 15 回開催

（2024 年 4 月 25 日、5 月 30 日、6 月 27 日、7 月 25 日に 2 回、8 月 29 日、9 月 26 日に 2 回、10 月 24 日、11 月 28 日、12 月 27 日、2025 年 1 月 30 日、2 月 27 日、3 月 28 日に 2 回）

2) 法人評議員会 4 回開催

（2024 年 5 月 30 日、7 月 25 日、9 月 26 日、2025 年 3 月 28 日）

3) 歯学部主任教授会 17 回開催

（2024 年 4 月 10 日、5 月 8 日、5 月 22 日、6 月 12 日、7 月 10 日、8 月 14 日、9 月 11 日、10 月 9 日、11 月 13 日、12 月 2 日、12 月 11 日、12 月 23 日、2025 年 1 月 10 日、2 月 12 日、3 月 10 日、3 月 12 日、3 月 26 日）

4) 歯学部教授会（全体教授会） 2 回開催

（2024 年 4 月 10 日、2025 年 3 月 26 日）

- 5) 医療保健学部教授会 16 回開催
(2024 年 4 月 17 日、5 月 15 日、6 月 19 日、7 月 17 日、8 月 21 日、9 月 18 日、10 月 16 日、
10 月 30 日、11 月 20 日、12 月 2 日、12 月 18 日、2025 年 1 月 15 日、2 月 12 日、2 月 19 日、
3 月 17 日、3 月 19 日)
- 6) 大学院歯学研究科会議 16 回開催
(2024 年 4 月 24 日、5 月 22 日、6 月 26 日、7 月 24 日、8 月 28 日、9 月 25 日、10 月 9 日、
10 月 23 日、11 月 13 日、11 月 27 日、12 月 25 日、2025 年 1 月 22 日、2 月 12 日、
2 月 26 日、3 月 12 日、3 月 26 日)
- 7) 大学院医療保健学研究科会議 12 回開催
(2024 年 4 月 17 日、5 月 15 日、6 月 19 日、7 月 17 日、8 月 21 日、9 月 18 日、10 月 16 日、
11 月 20 日、12 月 18 日、2025 年 1 月 15 日、2 月 19 日、3 月 19 日)
- 8) 看護学部教授会 16 回開催
(2024 年 4 月 17 日、5 月 15 日、6 月 19 日、7 月 17 日、8 月 21 日、9 月 18 日、10 月 16 日、
10 月 30 日、11 月 20 日、12 月 2 日、12 月 18 日、2025 年 1 月 15 日、2 月 12 日、2 月 19 日、
3 月 10 日、3 月 19 日)
40. 令和 6 年の叙勲受章者（本学関係）
学校法人大阪歯科大学評議員 澤田 隆 兵庫県 旭日小綬章 共 9 名
41. 教職員数（2024 年 5 月 1 日現在：407 名）
 - 1) 教員数 222 名
 - 学長 1 名
 - 歯学部 149 名
 - 主任教授 24 名、専任教授 10 名、准教授 15 名、講師 38 名、助教 62 名
 - 医療保健学部 28 名
 - 教授 7 名、准教授 4 名、講師 7 名、助教 5 名、助手 5 名
 - 看護学部 31 名
 - 教授 10 名、准教授 4 名、講師 5 名、助教 11 名、助手 1 名
 - 附属病院 13 名
 - 専任教授 4 名、准教授 1 名、講師 5 名、助教 3 名
 - 2) 職員数 185 名
 - 事務・技術 95 名、医療 89 名、労務 1 名
42. 人事
 1. 法人関係
 - 1) 監事就任 平田 正憲（任期：2024 年 7 月 25 日～2026 年 4 月 2 日）
 - 2) 顧問委嘱 高本 進（任期：2024 年 4 月 1 日付）
 - 3) 理事業務分担 財務担当 中尾 昌彦（2024 年 4 月 25 日付）
 - 4) 理事死亡退任 諏訪 文彦（2024 年 5 月 15 日付）
 - 5) 監事死亡退任 本井 文夫（2024 年 6 月 27 日付）
 - 6) 理事退任 三宅 達郎（2025 年 3 月 31 日付）

- 7) 評議員退任 梅田 誠 (2025 年 3 月 31 日付)
- 8) 教員定年退職 大学院看護学研究科開設準備室 専任教授 田村 恵子
2. 名誉教授称号授与 松本 尚之 共 2 名
3. 退職
 - 1) 定年退職 口腔衛生学講座 主任教授 三宅 達郎 共 9 名
 - 2) 依願退職 眼科 専任教授 辻村 まり 共 17 名
 - 3) 任期満了退職 有歯補綴咬合学講座 助教 覺道 昌樹 共 2 名
 - 4) 定年退職後再雇用満了退職 附属病院 歯科衛生士主任 濱田 和子
4. 昇任
 - 1) 歯学部主任教授 口腔外科学第一講座 准教授 窪 寛仁 共 2 名
 - 2) 医療保健学部教授 口腔保健学科 准教授 梶 貢三子 共 2 名
 - 3) 歯学部准教授 歯科保存学講座 講師 岩田 有弘 共 4 名
 - 4) 医療保健学部准教授 口腔工学科 講師 藤田 暁 共 3 名
 - 5) 歯学部講師 口腔解剖学講座 助教 松島 恭彦 共 6 名
 - 6) 医療保健学部講師 口腔保健学科 助教 前嶋 亜優子
 - 7) 医療保健学部助教 口腔保健学科 助手 寺島 雅子
 - 8) 職員 経理部 次長 白石 綾子 共 16 名
5. 任用
 - 1) 看護学部教授 成人看護学 博士(歯学) 雄西 智恵美 共 10 名
 - 2) 看護学部准教授 基礎看護学 博士(看護学) 北尾 良太 共 4 名
 - 3) 歯学部講師 欠損歯列補綴咬合学講座 博士(歯学) 黒崎 陽子 共 2 名
 - 4) 看護学部講師 精神看護学 修士(看護学) 梶川 拓馬 共 5 名
 - 5) 歯学部助教 数学教室 博士(数理科学) 木村 満晃 共 11 名
 - 6) 附属病院診療科助教 歯科麻酔科 学士(歯学) 遠矢 明菜
 - 7) 医療保健学部助教 口腔保健学科 社会福祉士 武輪 敬心
 - 8) 看護学部助教 基礎看護学 博士(看護学) 吉川 あゆみ 共 11 名
 - 9) 看護学部助手 成人看護学 修士(看護学) 藤岡 真理
 - 10) 大学院歯学研究科教員
 - 大学院教授 上村 守 共 22 名、大学院准教授 井上 博 共 16 名
 - 大学院講師 吉川 雅朗 共 20 名、大学院助教 角 陽一 共 21 名
 - 11) 大学院医療保健学研究科修士課程教員
 - 大学院教授 中塚 美智子 共 8 名、大学院准教授 緒方 智壽子 共 2 名
 - 大学院講師 首藤 崇裕 共 8 名、大学院助教 前嶋 亜優子 共 5 名
 - 12) 大学院医療保健学研究科博士課程(後期)教員
 - 大学院教授 神 光一郎 共 7 名、大学院准教授 山中 武志 共 3 名、
 - 大学院講師 首藤 崇裕 共 5 名、大学院助教 前嶋 亜優子 共 5 名
 - 13) 法人事務局 事務局長 清廣 哲之

- 14) 看護師 附属病院 森脇 瞳 共2名
- 15) 歯科衛生士 附属病院 清水 結衣
- 16) 歯科技工士 附属病院 林 恵理子
- 17) 臨床検査技師 附属病院 西村 美和
- 18) 任期付職員の専任職員登用 人事課 主任 中西 晋哉 共11名
- 19) 任期付職員新規採用 設置事務室 主任 須賀 久美子 共4名
6. 歯学部任期制教員任期更新 口腔治療学講座 主任教授 前田 博史 共13名
7. 医療保健学部任期制教員任期更新 口腔工学科 助手 黄 育清
8. 歯学部任期制教員無期転換 解剖学講座 主任教授 上村 守 共6名
9. 医療保健学部任期制教員無期転換 口腔保健学科 教授 梶 貢三子 共6名
10. 所属異動 大学院看護学研究科開設準備室 室長 田村 恵子 共15名
11. 在籍出向 口腔インプラント学講座 講師 原 朋也 共2名
12. 兼務 大学院看護学研究科開設準備室 室員 雄西 智恵美 共11名
13. 定年退職後再雇用 病院庶務課 課長補佐 中原 しのぶ 共3名
14. 委嘱

1) 大学役職者

副学長、歯学部学部長、総務部長	田中 昭男
副学長、大学院医療保健学研究科科長	今井 弘一
医療保健学部学部長	川添 堯彬
看護学部学部長	雄西智恵美
教務部長	山本 一世
学生部長	百田 義弘
図書館長	辻林 徹
附属病院病院長	中嶋 正博
大学院歯学研究科科長	梅田 誠
医療イノベーション研究推進機構長、附属病院副病院長	馬場 俊輔
教育情報センター所長	山本 景一
国際交流部長	橋本 典也
アドミッションセンター長	野崎 中成
附属病院副病院長	高橋 一也
教育情報センター副所長	南部 隆之
口腔保健学科学科長	神 光一郎
口腔工学科学科長	柿本 和俊
看護学科学科長	石原 逸子

2) 大学役職者交代

口腔保健学科学科長	島田 明子
-----------	-------

3) 歯科衛生士研修センター長 島田 明子

- 4) 地域連携・実践研究センター長 波川 京子
- 5) 歯学部特任教授 病理学室 田中 昭男 共 5 名
- 6) 医療保健学部特任教授 医療保健学部 方 一如 共 2 名
- 7) 歯学部特任准教授 歯科麻酔学講座 真鍋 康三
- 8) 歯学部特任講師 口腔治療学講座 池永 英彰
- 9) 名誉客員教授 岡山大学 名誉教授 山下 敦
- 10) 歯学部客員教授 近畿大学 名誉教授 本津 茂樹 共 11 名
- 11) 医療保健学部客員教授 兵庫医科大学 主任教授 岸本 裕光 共 3 名
- 12) 看護学部客員教授 大阪公立大学大学院 准教授 濱島 淑恵
- 13) 歯学部客員准教授 口腔治療学講座 好川 正孝
- 14) Honorary Visiting Professor Ariminum Research & Dental Education Center
Scientific Director Daniele Botticelli
- 15) Visiting Professor 韓国慶熙大学校歯科大学 主任教授 Young-Guk Park 共 6 名
- 16) 2024 年度歯学部講師（非常勤）423 名
2024 年度医療保健学部講師（非常勤）等 103 名
2024 年度看護学部講師（非常勤）等 11 名
2024・2025 年度歯学研究科講師（非常勤）28 名
2024 年度医療保健学研究科（修士課程）講師（非常勤）21 名
2024 年度医療保健学研究科博士課程（後期）講師（非常勤）10 名
- 17) 診療科科長 保存修復科 岩田 有弘 共 19 名
- 18) 診療科主任 保存修復科 森川 裕仁 共 16 名
- 19) 診療科科長変更 歯周治療科 嘉藤 弘仁 共 2 名
- 20) 診療科主任変更 歯周治療科 東 仁 共 2 名
- 21) 臨床教授 なかじま歯科医院 院長 中島 康 共 2 名
- 22) 臨床准教授・臨床講師 63 名
- 23) 医員等 41 名
- 24) 病院医員 55 名
- 25) 大学院医員 84 名
- 26) ティーチング・アシスタント 歯周病学 大学院 1 年 大木 淳平 共 30 名
- 27) リサーチ・アシスタント 口腔外科学第二 大学院 2 年 前川 穂香 共 2 名
- 28) ポストドクトラルフェロー 病理学 博士(歯学) 崔 晋豪
- 29) 歯学部学生相談室カウンセラー 臨床心理士 辻野 達也 共 2 名
- 30) 医療保健学部カウンセラー 臨床心理士 波多野 久美子
- 31) 楠葉学舎医務室嘱託医師 木田 博 共 3 名
- 32) 牧野学舎医務室嘱託医師 大久保 直 共 3 名

33) 各種委員会委員長

(1) 歯学部、歯学研究科関係

総務部委員会	委員長	田中	昭男
公開講座委員会	委員長	三宅	達郎
廃棄物処理委員会	委員長	梅田	誠
学内食堂管理運営委員会	委員長	百田	義弘
歯学部教務部委員会	委員長	山本	一世
第5学年・第6学年教務部委員会	委員長	山本	一世
既卒者クラス教務部委員会	委員長	益野	一哉
共用試験歯学生C B T委員会	委員長	藤原	眞一
F D委員会	委員長	田中	昭男
共用試験歯学生O S C E実行委員会	委員長	山本	一世
歯学部学生基礎実習運営連絡検討委員会	委員長	山本	一世
歯学部ブラッシュアップ委員会	委員長	今井	弘一
歯学部カリキュラム委員会	委員長	田中	昭男
入試委員会	委員長	野崎	中成
歯学部学生部委員会	委員長	百田	義弘
図書館運営委員会	委員長	辻林	徹
図書資料選択委員会	委員長	辻林	徹
歯学研究科大学院委員会	委員長	梅田	誠
学術研究奨励助成金交付審査委員会兼共同研究助成審査委員会	委員長	今井	弘一
知的財産委員会	委員長	山本	一世
発明検討委員会	委員長	馬場	俊輔
組換えDNA実験安全委員会	委員長	梅田	誠
研究不正防止計画推進委員会	委員長	川添	堯彬
T R I M I 委員会	委員長	馬場	俊輔
T R I M I 研究実験センター委員会	委員長	戸田	伊紀
T R I M I 先進医療研究センター委員会	委員長	橋本	典也
T R I M I 事業化研究推進センター委員会	委員長	馬場	俊輔
動物実験委員会	委員長	上村	守
バイオセーフティー委員会	委員長	戸田	伊紀
国際交流部委員会	委員長	橋本	典也
医の倫理委員会	委員長	中嶋	正博
(臨床研究利益相反検討委員会)			
教育情報センター管理運営委員会	委員長	山本	景一

ネットワーク小委員会	委員長	山本 景一
数理・データサイエンス・AI 教育領域運営小委員会		
	委員長	山本 景一
教学システム小委員会	委員長	山本 景一
大学協議会	議長	川添 堯彬
教員評価委員会	委員長	川添 堯彬
ハラスメント防止委員会	委員長	川添 堯彬
健康管理委員会	委員長	中嶋 正博
大阪歯科大学CST委員会	委員長	上村 守
(2) 医療保健学部、医療保健学研究科関係		
教務部委員会	委員長	柿本 和俊
カリキュラム委員会	委員長	柿本 和俊
学生部委員会	委員長	橋本 正則
キャリア支援委員会	委員長	中塚美智子
生涯学習委員会	委員長	糸田 昌隆
臨地・臨床実習評価委員会	委員長	神 光一郎
臨地・臨床実習検討会	委員長	神 光一郎
学生支援小委員会	委員長	藤井 孝政
歯科衛生士研修センター運営会議	委員長	島田 明子
口腔保健学科連絡会	委員長	神 光一郎
口腔工学科連絡会	委員長	柿本 和俊
社会福祉士コース連絡会	委員長	米澤美保子
(3) 看護学部関係		
看護学科会議	議長	石原 逸子
教務委員会	委員長	石原 逸子
臨地実習運営委員会	委員長	伊津美孝子
学生委員会	委員長	荒木 孝治
国家試験対策委員会	委員長	大山 末美
予算委員会	委員長	祖父江育子
地域連携・実践研究センター運営委員会	委員長	波川 京子
(4) 法人関係		
財務企画委員会	委員長	川添 堯彬
財務企画委員会病院の運営に関する事項部会	部会長	中嶋 正博
財務企画委員会牧野学舎将来計画作業部会	部会長	田中 昭男
財務企画委員会給与部会	部会長	田中 昭男
財務企画委員会経営部会	部会長	田中 昭男

退職資金管理運営委員会	委員長	上田 雅俊
業者登録選考委員会	委員長	田中 昭男
学術研究奨励基金管理運営委員会	委員長	田中 昭男
環境管理委員会	委員長	山本 一世
枚方資料センター管理運営委員会	委員長	田中 昭男
予算委員会	委員長	田中 昭男
人事委員会	委員長	田中 昭男
自己点検・評価委員会	委員長	川添 堯彬
ODUウェルネス・ホール管理運営委員会	委員長	田中 昭男
広報委員会	委員長	川添 堯彬
人権啓発推進委員会	委員長	川添 堯彬
個人情報保護委員会	委員長	川添 堯彬
大阪歯科大学附属病院財務改善検討委員会	委員長	田中 昭男
資産運用検討委員会	委員長	田中 昭男
学校法人大阪歯科大学利益相反検討委員会	委員長	田中 昭男
附属病院・専門学校経営改善委員会	委員長	川添 堯彬
学校法人大阪歯科大学省エネルギー推進委員会	委員長	田中 昭男
大阪歯科大学体育館（多目的施設）建設に関する検討委員会	委員長	田中 昭男
附属病院組織改革委員会	委員長	川添 堯彬
楠葉学舎衛生委員会	委員長	三宅 達郎
天満橋附属病院衛生委員会	委員長	志水 秀郎

(2024 年 4 月 1 日付)

天満橋キャンパス整備建設委員会	委員長	川添 堯彬
-----------------	-----	-------

(2024 年 6 月 27 日付)

34) 歯学部学年指導教授

1 年 上村 守、2 年 本田 義知、3 年 富永 和也、4 年 小野 圭昭
5 年 前田 博史、6 年 三宅 達郎、前川 賢治

35) 医療保健学部学年指導教授

口腔保健学科 1 年 神 光一郎、2 年 橋本 正則、3 年 糸田 昌隆、4 年 島田 明子
口腔工学科 1 年 柿本 和俊、2 年 藤井 孝政、3 年 樋口 鎮央、4 年 中塚 美智子

36) 看護学部学年指導教授

1 年 波川 京子

37) 歯学部学友会

会長 主任教授 上村 守、副会長 主任教授 沖永 敏則

43. 国際交流（本文参照）

44. 補助金等

- 1) 2024 年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金交付（14 件）2,500,000 円
- 2) 令和 6 年度科学研究費補助金交付（文部科学省）（本文参照）
- 3) 令和 6 年度私立大学等経常費補助金交付（本文参照）
- 4) 大学等における修学の支援に関する法律による令和 6 事業年度授業料等減免費交付
50,692,600 円
- 5) 大阪府医療機関食材料費高騰対策一時支援金交付 112,000 円
- 6) 大阪府医療機関浸水対策事業費補助金交付 300,000 円
- 7) 令和 6 年度私立大学等研究設備整備費等補助金（私立大学等研究設備等整備費）交付
6,966,000 円
- 8) 令和 6 年度臨床研修費等補助金（歯科医師）交付 74,413,000 円
- 9) 寄贈

大阪歯科大学歯学部学友会 上村守会長、医療保健学部学友会 神光一郎会長から楠葉学舎講堂
2 階（控室）の防音工事費及び牧野学舎体育館トイレの改修工事費として（計 16,000,000 円）

共 6 件

45. 諸規程等

- 1) 大阪歯科大学学則（一部改正）
- 2) 入学試験委員会規程（施行）
- 3) 学生の通学が困難となる事由が発生した場合の授業等の取扱い規程（一部改正）
- 4) 大阪歯科大学歯学部における勉学とクラブ活動に関する内規（一部改正）
- 5) 大阪歯科大学総務部委員会規程（一部改正）
- 6) 教員退職時の特別昇進に関する内規（一部改正）
- 7) 大阪歯科大学共同研究員受入規程（一部改正）
- 8) 学校法人大阪歯科大学教員評価委員会規程（一部改正）
- 9) 大阪歯科大学教育情報センター管理運営委員会規程（一部改正）
- 10) 大阪歯科大学図書館規程（一部改正）
- 11) 図書館業務に関する事務分掌細則（一部改正）
- 12) 図書館運営委員会に関する細則（一部改正）
- 13) 図書資料選択委員会に関する細則（一部改正）
- 14) 学生図書委員会に関する細則（一部改正）
- 15) 図書館の利用に関する細則（一部改正）
- 16) 大阪歯科大学の諸規則の制定等に関する規則（一部改正）
- 17) 大阪歯科大学看護学部教務委員会規程（施行）
- 18) 大阪歯科大学看護学部臨地実習運営委員会規程（施行）
- 19) 大阪歯科大学看護学部学生委員会規程（施行）
- 20) 大阪歯科大学看護学部国家試験対策委員会規程（施行）

- 21) 大阪歯科大学看護学部看護学科会議規程（施行）
- 22) 大阪歯科大学看護学部学生支援体制（学生担任制）に関する申し合わせ（施行）
- 23) 大阪歯科大学看護学部保健師教育課程履修者選考基準（施行）
- 24) 成績評価に対する学生からの異議申立についての申し合わせ（施行）
- 25) 大阪歯科大学看護学部在学生特待生規程（施行）
- 26) 大阪歯科大学看護学部管理運営規則（施行）
- 27) 大阪歯科大学看護学部予算委員会規程（施行）
- 28) 大阪歯科大学地域連携・実践研究センター運営規程（施行）
- 29) 大阪歯科大学地域連携・実践研究センター運営委員会規程（施行）
- 30) 学校法人大阪歯科大学管理運営規則（一部改正）
- 31) 学校法人大阪歯科大学教育職嘱託給与規程（一部改正）
- 32) 学校法人大阪歯科大学経理規程（一部改正）
- 33) 学校法人大阪歯科大学嘱託規程（一部改正）
- 34) 学校法人大阪歯科大学安否確認システム管理運営要綱（一部改正）
- 35) 大阪歯科大学附属病院病院医員就業規則（一部改正）
- 36) 学校法人大阪歯科大学教員の定員等に関する規程（一部改正）
- 37) 教員の昇任資格審査に関する申し合わせ（一部改正）
- 38) 任期制教員の再任用基準に関する申し合わせ（一部改正）
- 39) 大阪歯科大学歯学部学業成績評価に関する規程（一部改正）
- 40) 大阪歯科大学学位規程（一部改正）
- 41) 大阪歯科大学人を対象とする歯学・医学・看護学研究実施規則（一部改正）
- 42) 大阪歯科大学医の倫理委員会規程（一部改正）
- 43) 学校法人大阪歯科大学臨床研究利益相反管理規程（一部改正）
- 44) 大阪歯科大学臨床研究利益相反検討委員会規程（一部改正）
- 45) 大阪歯科大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程（一部改正）
- 46) 学内食堂管理運営委員会規程（一部改正）
（旧：歯学部学内食堂管理運営委員会規程）
- 47) 学校法人大阪歯科大学定年退職者の再雇用に関する規則（一部改正）
- 48) 定年退職後再雇用者の勤務細則（一部改正）
- 49) 材料薬品等管理運営委員会規程（一部改正）（以上 2024 年 4 月 1 日付）
- 50) 大阪歯科大学転学部への取扱いに関する規程（一部改正）（2024 年 4 月 1 日付）（2025 年 1 月 1 日付）
- 51) 教員の兼務、出張及び研修に関する内規（一部改正）
（2024 年 4 月 1 日付）（2024 年 7 月 25 日付）（2024 年 12 月 27 日付）
- 52) 大阪歯科大学看護学部教授会規程（施行）（一部改正）（2024 年 4 月 1 日付）（2024 年 4 月 2 日付）
- 53) 大阪歯科大学看護学部履修規程（施行）（一部改正）（2024 年 4 月 1 日付）（2025 年 2 月 27 日付）
- 54) 教職員定年規程（一部改正）
- 55) 職員の定年の延長に関する申し合わせ（一部改正）（以上 2024 年 4 月 25 日付）
- 56) 学校法人大阪歯科大学契約職員就業規則（一部改正）（2024 年 4 月 25 日付）（2025 年 2 月 27 日付）
- 57) 大阪歯科大学組換えDNA実験安全管理規程（一部改正）
- 58) 大阪歯科大学附属病院規程（一部改正）（以上 2024 年 5 月 30 日付）

- 59) 大阪歯科大学看護学部FD・SD 部会申し合わせ（施行）
- 60) 大阪歯科大学看護学部ゲストスピーカー招聘要領（施行）
- 61) 名誉教授称号授与に関する規程（一部改正）（以上 2024 年 7 月 25 日付）
- 62) 大阪歯科大学医療保健学部入学特待生に関する内規（施行）
- 63) 大阪歯科大学看護学部入学特待生に関する内規（施行）（以上 2024 年 8 月 29 日付）
- 64) 大阪歯科大学四学舎施設使用規程（一部改正）（2024 年 9 月 26 日付）（2025 年 3 月 28 日付）
（旧：大阪歯科大学三学舎施設使用規程）
- 65) 大阪歯科大学附属病院施設使用規程（一部改正）（2024 年 10 月 24 日付）
- 66) 学校法人大阪歯科大学給与規程（一部改正）
- 67) 大阪歯科大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程（一部改正）
（以上 2024 年 11 月 28 日付）
- 68) 学校法人大阪歯科大学寄附行為（改正）（令和 6 年 12 月 19 日認可、令和 7 年 4 月 1 日施行）
- 69) 学校法人大阪歯科大学教員の任期に関する規程（一部改正）（2025 年 1 月 1 日付）
- 70) 大阪歯科大学客員教員規程（一部改正）
- 71) 大阪歯科大学客員教員の勤務条件及び待遇に関する内規（施行）
- 72) 大阪歯科大学教員任用規程（一部改正）
- 73) 大阪歯科大学臨床教授等の称号の付与に関する規則（一部改正）（以上 2025 年 1 月 30 日付）
- 74) 大阪歯科大学学費等納付金規程（一部改正）（2025 年 2 月 27 日付）

第2部 令和6年度（2024年度）財務状況の概要

1. 決算の概要

（1）貸借対照表関係

固定資産が前年度比58百万円増加する一方、流動資産が569百万円減少したため、資産の部の合計額は511百万円減少しました。

純資産は、311百万円減少しましたが、総資産の部合計も511百万円減少したため、純資産が総資産に占める割合である純資産構成比率は0.3ポイント向上し、92.0%となりました。

①貸借対照表の状況と経年比較

科 目	2020	2021	2022	2023	2024
固定資産	55,241	54,787	55,076	55,056	55,114
有形固定資産	17,613	16,886	18,859	23,153	22,758
特定資産	37,235	37,554	35,648	31,370	31,887
その他の固定資産	392	346	568	532	468
流動資産	4,199	4,690	4,670	4,830	4,260
資産の部合計	59,441	59,478	59,747	59,886	59,375
固定負債	3,651	3,524	3,409	3,336	3,292
流動負債	1,391	1,494	1,505	1,625	1,470
負債の部合計	5,042	5,016	4,914	4,962	4,763
基本金	74,033	73,773	74,609	74,887	75,346
繰越収支差額	△ 19,634	△ 19,312	△ 19,776	△ 19,964	△ 20,734
純資産の部合計	54,398	54,461	54,832	54,923	54,611
負債及び純資産の部合計	59,441	59,478	59,747	59,886	59,375

（単位：百万円、百万円未満切捨て）

②財務比率の経年比較

項 目	項目の解説	2020	2021	2022	2023	2024
純資産構成比率	財政的な安定度を評価する指標	91.5	91.6	91.8	91.7	92.0
運用資産余裕比率	経常的支出規模に対する運用資産の蓄積度を示す指標	5.2	5.3	4.8	3.0	3.8
流動比率	短期的な支払能力を評価する指標（200%以上は優良）	301.8	314.5	310.3	297.1	289.8
総負債比率	総負債に対する他人資金の比重を評価する指標	8.5	8.4	8.2	8.3	8.0
前受金保有率	前受金が現預金で適切に保有されているかを示す指標	682.2	787.1	749.6	653.8	585.4
基本金比率	基本金要組入額に対する組入済基本金の割合	99.8	99.8	99.8	99.9	99.9
積立率	運用資金の積立状況を表す指標	68.8	69.7	68.1	65.7	64.8

（単位：運用資産余裕比率は「年」、その他は「%」）

(2) 事業活動収支計算書関係

2024年4月に看護学部を開設したことに伴い教育活動支出が増加する一方、教育活動収入は看護学部の1学年分の増加にとどまったため、教育活動収支差額、経常収支差額、基本金組入前当年度収支差額は支出超過となりました。

①事業活動収支計算書の状況と経年比較

科 目	2020	2021	2022	2023	2024
学生生徒等納付金	4,756	4,743	4,784	4,806	4,978
手数料	41	45	43	50	43
寄付金	43	50	60	49	73
経常費等補助金	439	462	474	428	432
付随事業収入	2,354	2,622	2,836	3,086	3,018
雑収入	336	314	368	347	311
教育活動収入計	7,971	8,238	8,568	8,769	8,857
人件費	4,319	4,307	4,415	4,583	4,712
教育研究経費	2,890	2,961	3,152	3,488	3,836
管理経費	539	524	667	648	709
徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	7,749	7,793	8,235	8,720	9,258
教育活動収支差額	222	445	333	48	△ 400
受取利息・配当金	47	46	33	38	48
教育活動外収入計	47	46	33	38	48
教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	47	46	33	38	48
経常収支差額	269	491	366	87	△ 351
資産売却差額	0	0	0	0	40
その他の特別収入	23	16	74	19	11
特別収入計	23	16	74	19	52
資産処分差額	25	444	70	15	12
その他の特別支出	0	0	0	0	0
特別支出計	25	444	70	15	12
特別収支差額	△ 2	△ 428	3	4	40
基本金組入前当年度収支差額	267	63	370	91	△ 311
基本金組入額合計	△ 110	△ 64	△ 7,135	△ 278	△ 464
当年度収支差額	156	△ 1	△ 6,764	△ 187	△ 776
前年度繰越収支差額	△ 19,791	△ 19,634	△ 19,312	△ 19,776	△ 19,964
基本金取崩額	0	324	6,300	0	6
翌年度繰越収支差額	△ 19,634	△ 19,312	△ 19,776	△ 19,964	△ 20,734
(参考)					
事業活動収入計	8,043	8,301	8,676	8,827	8,959
事業活動支出計	7,775	8,238	8,305	8,736	9,270

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

②財務比率の経年比較

項 目	項目の解説	2020	2021	2022	2023	2024
人件費比率	人件費の経常収入に占める割合	53.9	52.0	51.3	52.0	52.9
教育研究経費比率	教育研究経費の経常収入に占める割合	36.0	35.7	36.6	39.6	43.1
管理経費比率	管理経費の経常収入に占める割合	6.7	6.3	7.8	7.4	8.0
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額の対事業活動収入比率	3.3	0.8	4.3	1.0	△ 3.5
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金の経常収入に占める割合	59.3	57.2	55.6	54.6	55.9
経常収支差額比率	経常収支差額の経常収入に占める割合	3.4	5.9	4.3	1.0	△ 4.0

(単位：%)

(3) 資金収支計算書関係

収入の部では、看護学部の開設に伴い学生生徒等納付金収入が前年度比増加する一方、付随事業・収益事業収入が医療収入を中心に減少しました。

支出の部では、新学舎建設事業の完成に伴い施設・設備関係支出が大幅に減少しました。

翌年度繰越支払資金は477百万円減少しました。

① 資金収支計算書の状況と経年比較

科 目	2020	2021	2022	2023	2024
学生生徒等納付金収入	4,756	4,743	4,784	4,806	4,978
手数料収入	41	45	43	50	43
寄付金収入	43	49	60	48	73
補助金収入	439	462	527	428	432
資産売却収入	0	0	0	0	41
付随事業・収益事業収入	2,354	2,622	2,836	3,086	3,018
受取利息・配当金収入	48	46	33	38	48
雑収入	334	311	366	346	310
前受金収入	529	523	535	641	634
その他の収入	1,017	1,101	9,955	5,784	1,014
資金収入調整勘定	△ 1,095	△ 1,083	△ 1,157	△ 1,154	△ 1,159
前年度繰越支払資金	3,358	3,609	4,118	4,013	4,191
収入の部合計	11,827	12,434	22,106	18,089	13,627
人件費支出	4,363	4,415	4,521	4,660	4,729
教育研究経費支出	2,269	2,357	2,523	2,809	2,900
管理経費支出	460	434	575	551	585
施設関係支出	95	185	2,118	3,981	300
設備関係支出	171	164	879	1,053	306
資産運用支出	827	835	7,451	840	895
その他の支出	491	475	564	551	562
資金支出調整勘定	△ 459	△ 552	△ 540	△ 550	△ 367
翌年度繰越支払資金	3,609	4,118	4,013	4,191	3,714
支出の部合計	11,827	12,434	22,106	18,089	13,627

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

② 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科 目	2020	2021	2022	2023	2024
教育活動資金収入計	7,969	8,235	8,566	8,766	8,856
教育活動資金支出計	7,092	7,207	7,620	8,022	8,215
差引	876	1,028	946	744	640
調整勘定等	△ 60	67	△ 50	108	△ 1
教育活動資金収支差額 (A)	816	1,096	896	852	638
施設整備等活動資金収入計	0	0	2,379	4,623	41
施設整備等活動資金支出計	487	570	9,770	5,260	935
差引	△ 487	△ 570	△ 7,390	△ 637	△ 894
調整勘定等	△ 38	20	△ 40	21	△ 95
施設整備等活動資金収支差額 (B)	△ 525	△ 549	△ 7,431	△ 615	△ 989
小計 (A+B)	290	547	△ 6,535	236	△ 350
その他の活動資金収入計	570	578	7,109	565	444
その他の活動資金支出計	609	616	679	624	571
差引	△ 39	△ 38	6,429	△ 59	△ 126
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額 (C)	△ 39	△ 38	6,429	△ 59	△ 126
支払資金の増減額 (A+B+C)	251	508	△ 105	177	△ 476
前年度繰越支払資金	3,358	3,609	4,118	4,013	4,191
翌年度繰越支払資金	3,609	4,118	4,013	4,191	3,714

③ 財務比率の経年比較

項 目	項目の解説	2020	2021	2022	2023	2024
教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収入に占める教育活動資金収支差額の割合	10.3	13.3	10.5	9.7	7.2

(単位：%)

2. その他

①資産運用の状況

- ・ 本学は以下の引当特定資産毎に設定された目的に応じた運用期間、手法で運用を行っています。

第3号基本金引当特定資産

学生奨学資金、研究者の研究奨励資金、本学の安定的な経営に資するための資金

退職金引当特定資産

教職員の将来の退職金の原資

減価償却引当特定資産

建物等の償却資産の改修や再構築の原資

医療機器購入資金引当特定資産

附属病院で使用する大型の医療機器等の原資

記念行事資金引当特定資産

周年記念行事等に使用する資金

- ・ 本学は「学校法人大阪歯科大学資産運用規程」に基づき、リスクの排除を重視した安全・確実な運用方針に基づく運用を行っています。

年度毎の運用方針並びに個別案件の運用については、資産運用検討委員会並びに法人理事会の議を経て決定しています。

また、実際の運用に運用に当たっては、運用期間の分散化に留意し、将来の金利変動に中立的なポートフォリオの構築を目指すとともに、運用商品・運用機関の選定過程の透明性の確保にも留意しています。

②学校債の状況

- ・ 学校債の発行実績はありません。

③寄付金の状況

- ・ 2024年度の寄付金収入の大半は、一般企業等からの研究目的等を指定した特別寄付金が占めており、それぞれの目的に応じた使用を行っています。

④補助金の状況

- ・ 2024年度の補助金収入の大半は、経常費等補助金や授業料等減免費交付金等の国庫補助金が占めており、補助目的に応じた使用を行っています。

⑤収益事業の状況

- ・ 本学は、本学の寄附行為に規定すべき収益事業を行っていません。

3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

- ・ 本学は、546億円の純資産（純資産構成比率92%）を有し、その内356億円を運用資産が占めるという資産内容を有しており、外部からの有利子負債も皆無であるため、相応に安定した財務基盤を有しています（運用資産余裕比率は3.8年）。

また、16期連続で30億円以上の支払資金残高を維持する等、安定した支払能力を有しています。

- ・ 経常収支差額は、12期連続で黒字を維持していましたが、2024年度は看護学部の開設に伴う負担増により赤字を計上しました。

ただし、看護学部は開設年度である2024年度に続き、2025年度の新入生も募集定員を充足することができているため、早期の黒字化を見込んでいます。

- ・ 今後は、教育・研究・診療水準のより一層の向上を目指した環境整備を実現するために、歯学部、医療保健学部、看護学部、附属病院の全部門が安定的な経常収支差額を計上できる体制の構築を目指します。